巻頭言

1963年に期待する

日本ハンドボール協会会長

式場隆三郎

一九六一年と六二年は、わが日本ハンドボール協会の歴史に特筆すべき大きな出来ごとが数々あった。いまそれらの輝かしい業績をふりかえってみる暇はないが、六三年に期待をかけるにはその反省も必要である。多年の努力がようやく実をむすんで、世界ハンドボール界の一流国に伍してゆける地位を確保できたことは嬉しい。しかし、それだけに責任は重く、使命は大きい。われらはここに協力一致、わが国のハンドボールがさらに向上し、充実することに全力をあげねばならない。

六三年はさらに多くの計画がたてられている。その一つ一つを立派になしとげたい。夏にはスイスにおけるフィールドの世界選手権大会がひらかれ、わがチームの参加も決定している。諸外国チームとの交流もすすめられので、一層多忙な年になると思う。一方国内ではますます組織を充実し、技術の向上にも励まねばならぬ。未開拓の地方への進出、普及をはかり、在来のところには強化対策を樹立したい。ハンドボール関係者のこの上とも厚い友愛と協力によって新しい年を十分意義あらしめたいものである。

ハンドボール「第12号 目次」

表紙写真…第五回全日本学生選手権大会決勝芝工大対日体大戦から…宮城県協会福富造氏から送付されました。

国際情勢と欧州の近況

日本ハンドボール協会理事長　高嶋　冽

国際情勢について

一九六二年は、日本にとっても、また国際ハンドボール連盟（I・H・F）にとっても、多忙な年であった。

それは、夏ルーマニアの首都ブカレストを中心とした女子七人制世界選手権大会の実施であり、また秋スペインの首都マドリードにおけるI・H・F通常総会の開催であった。

この二つの大きな国際的集りに参加した私は、自分の目で見、かつ耳で聞いた国際情勢や、特にヨーロッパ・ハンドボールの現況を報告したいとおもう。

加盟国の増加

ハンドボールが年々歳々遼原の火のように、世界各国に拡がっていることは、既に過去何回も報告したが、それは既加盟国の国内競技人口を増すことだけにとどまらず、未開発地に対しても、極めて積極的に行なわれている。

その当然の結果として、本年の年次通常総会では、チュニジア・象牙海岸、セネガル、カナダ、シリア、アメリカ合衆国の各協会が、正式にI・H・Fのメンバーとして加盟し、その数は三十四ケ国に達した。

その他にも、加盟は承認されなかったが、ハンドボールが根を下し、活躍を続け、次回総会には、恐らく承認されるだろうと予想されるものが、カメルーン、オーボルタ、ブルガリア、イギリス、トルコ、マダガスカル、メキシコ、オランダ領西インド諸島等が続々と続いている。特にブルガリアは、I・H・F執行部の特別の計らいで、既に今冬行われるスウェーデンの学生世界選手権大会に、出場することになっている。

以上のような加盟国数が増加する喜ばしい現況の中に、各国主脳は、歴史の古い競技に挑戦する為には、国内における競技人口（ハンドボールの）をふやす以外に、方法はないとの一致した意見をもっている。

この問題については、私もあらゆる機会を捉えて、各国の主脳部の人々と意見の交換をして来たが、競技人口増加対策の問題になると、例外なく話は七人制、十一人制の問題に発展して行くのが常であった。I・H・Fの執行部も、この問題については、重大な岐路に立たされているとの感を深くした。

参考までに、I・H・Fへの正式登録競技人口は、

チーム数	
男　子	三八、一四七
女　子	一〇、九〇五
ジュニアー	二五、六四八
計	七四、〇〇〇チーム

競技者数	
男　子	六三一、一〇六
女　子	一七四、三七五
ジュニアー	五三六、四二〇
計	一、三四一、九〇一名

である。

尚右の数字には、前述した新加盟の六ケ国及び、回答のない韓国、エジプト、モロッコ等は含まれていない。

急激な発展とげる東欧圏

東歌諸国が近年急速な発展を遂げ、且つハンドボールに対して、異常なまでの情熱を示している。これは、ルーマニアの異常なまでの成功に刺激されていることが一つと、他の一つは、ソ連邦の参加である。

ルーマニア・ハンドボールの歴史は、ドイツと共に、世界で最も古いものの一つである。それはルーマニアの北西部であるヴラシヨフヤ、シビウ地方に、ドイツの開拓農民が移住したときから始まるといわれている。

それが近年にいたり、国家のばく大な援助と、きびしい訓練により世界に前例のない成功（男子七人制・女子十一人制の世界選手権者、男子十一人制第二位）を修めた。ルーマニアにおいては、文字通りハンドボールが国家第一のスポーツであり、ハンドボールの代表選手は、国家の英雄であることは、東欧諸国における他のスポーツのそれといささかも変りはない。

それが次第にチェコスロヴァキア、ハンガリー、ユーゴスラヴィア、ポーランド等を刺激し、ついに近来ソ連邦をも、ハンドボールを除いてはスポーツを考えられないところまでに開拓したのであろう。

十分な準備を完了したソ連女子チームは、七月のブカレストにおける第二回女子七人制世界選手権大会に、初出場した。これはソ連邦のハンドボールにとって初めての国際大会進出であった。しかしながら結果は、ハンガリーに次いで第六位に甘んじた。

I・H・F公報第三六号は、このことに触れ、「あちこちでその力量が称えられ、ダークホースとして位置づけられていたソ連チームのプレーを見ることには多くの関心がもたれていた。ドイツに対する幸運な一勝と、明白な四敗という戦果は、この予想を裏切った。

ヨーロッパの強力チームとの定期的な交流が、国際的に不可欠な経験をもたらすものであるというソ連男子チームに関して言われている見解が、女子選手についても同様にいえることである。」と言明している。

しかしながら、このこととは別に、私

の直接触れた感じでは、今後の東欧諸国は、ソ連の強大な政治的分野と、ルーマニアの異常なまでの技術的成功を両輪として、世界のハンドボール界に君臨する日も、そう遠くはないような気がする。

競技人口の増加策

このことは、国際的な集りで、各国主脳と会談するとき、きまって出て来る共通の話題の一つである。国内競技人口を、どうしたら最も早く、且つ効果的に増加出来るかを、真剣に考えている。

七月渡欧の際には、ドイツ協会の理事長ビリング、及び既に有名な指導者であるケンパ、ルーマニアのツドール、チェコスロバキアのボシェック等と、また九月にはフランス協会理事長のピカール、会長のプチモンゴベール、I・H・F会長のバウマン・理事長のワグナー・会計のリンケンバーガー等々と話し合ってみたが、結局はその国々の事情の外に、七人制か十一人制かの問題が常に議論の焦点になっている。どこの世界にも、古いものへの執着と、新しいものへの魅力が同居しているのはやむを得ないことだろうと思う。

しかしながら、結論的には左記のような要素を備えることが、スポーツが大衆に愛されかつ、興味をもたれる基本条件であることとの意見の一致はみたのである。

a　スピード感が溢れていること。
b　スリルにとんでいること。
c　手軽にゲームが出来ること。

7人制か11人制か

既に何回も繰返して述べたように、この問題は、極めて慎重な討議と、真剣な構想をもってしても、尚且つ結論を出すことは難しい。

しかし他のいろいろな事象が、往々にして理論よりも、大衆の行動や、実践が先行すると同じように、ハンドボールにおいても、専問家の理論をよそに、選手や大衆は急激に七人制へと移行しているのは、まぎれもない事実である。しかもその移行のスピードは、年一年と加速度を加えているように感じられる。昨年三月西ドイツ・ドルトムントにおける男子七人制世界選手権大会決勝や、本年七月ブカレストにおける女子七人制の決勝等は、それぞれ二万人以上の観衆がつめかけたことを見ても、このことは実証されるとおもう。

そしてこのことは、最近における最も大きな国際情勢の変化であり、前述のI・H・F正式加盟国三十四ケ国のうち、十一人制実施の国は、わずかに、西ドイツ、東ドイツ、スイス、オランダ、ポーランド、イスラエル、ハンガリー、日本、韓国ぐらいとなってしまった。

またこの情勢の急激な変化のため、九月のI・H・F総会は、七人制世界選手権大会の開催を、従来の四年毎から、二年毎に改正する提案を採択した。これも七人制競技の増大しつつある人気の反映と見ることが出来る。

欧州の近況について

ヨーロッパの近況と特別に項目を与えられたが、ヨーロッパのハンドボールは即ち世界のハンドボールの大半を占めることは、先刻ご承知のことと思う。したがって前述の国際情勢は、そのまま、ヨーロッパにも当てはまる訳で、ここで改めて取り上げることを、省略する。その代り最も親しい二、三の国々の近況を紹介し、これにかえることとする。

西ドイツ

いつでも兄弟のような親しさで接してくれるドイツ人。そして相変らず世界第一の強大な組織を誇るドイツハンドボール協会は、ファイク会長、ビリング理事長の統率のもとに、一糸みだれない活動を続けている。

歴史が古いだけに、主脳部役員も年配者が多く、大体がベルリンオリンピック時代の選手が中心だ。あの世界的に有名なケンパ氏クラス（四十歳代）でも、まだまだ使い走りの状態である。組織が大きいだけに、やることも大きく複雑で、一例を挙げれば、私が本年女子選手をつれて滞在中、日独対抗の女子の試合を行うかたわら、男子の第二ナショナルチームは、セントガーレン（スイス）でスイスとの国際試合を行っており、一方第一男子チームは、ウィーンでの国際試合に遠征しているといった調子。どこに行っても、かってハンドボールの選手であったと誇らしげに自己紹介するオヂチャン・オバチャンがうようよ。〃ハンドボールって、どんなことをするんですか〃なんて聞く人は、全国民の中に一人も存在しないと考えて、まず間違いはない。

日本と同様に、冬季七人制を行い、夏季に十一人制を実施している。

フランス

ここには本協会ヨーロッパ駐在理事の、河内鋭夫・光子（てるこ）夫妻が、フランス協会内の、へんてこな役員よりも、もっと顔を利かせていてくれる。したがって、ヨーロッパ遠征の選手団は、常にパリーを根拠地にすることになる。

会長のプチモンゴベールさんはフランスN・O・Cの大物、一九六八年のオリンピック誘致に大童の活躍をしており、〃その際は、ハンドボールを入れるから安心しろ〃と慰めてくれた。〃但し七人制だぞ！〃をつけ加えることを忘れなかった。

理事長のピカール氏は、本来十一制支持者であるが、彼の手によってフランスは、七人制一本に統制された。去る九月上旬の一夜、パリーの街角のレストランで、この問題について意見の交換をしたが、彼は

a　フランスは、現在まだ普及の途上にあること、
b　普及させるためには、七人制以外に方法は考えられない、

と、自信と、情熱をもって言い切った。

彼の理想と、情熱の現れとして、昨年度男子は六位に入賞した。しかし女子のレベルは未だ低く、日本と比較すれば、三〜四年の開きがあるようにおもえる。

スカンジナビア（スウェーデン・デンマーク・ノルウェー）

最も早く七人制に切り替えた。天候と地形によるものと考えられるが、既に普及の段階を終り、国際的上位のレベルへの進出をねらっている。

ヨーロッパにおける最近の大会（抜すい）

a　第二回女子七人制世界選手権大会
　於ルーマニア　省略
b　タスマジャン杯選手権（男子七人制）ユーゴスラヴィアのペルグラードで開かれユーゴスラヴィアが優勝。参加国、ハンガリー・デンマーク・ルーマニア・ユーゴスラヴィア
　世界選手権者ルーマニアは、決勝戦においてユーゴスラヴィアに十一〜十四で破れた。
c　ラテンカップ選手権（男子七人制）ポルトガルのリスボンで行われ、フランスが優勝。参加国、フランス・スペイン・モロッコ・ポルトガル。
d　第一回学生七人制世界選手権大会明年一月、スウェーデンのルントで挙行される。参加国、ブルガリア・デンマーク・イスラエル・日本・ノルウェー・西ドイツ・スペイン・スウェーデン。
e　女子ヨーロッパカップ（女子七人制）チェコスロバキアのプラハで行われ、スパルタク・プラーグ・ソコロボが優勝。参加チーム・ラーゼンスポルベーレン・ミュルハイム（東ドイツ）BSGロコモティブ・ラングスドルフ（西ドイツ）ナント大学大西洋クラブ（フランス）ORKペルグラード（ユーゴスラヴィア）ウイーン女子スポーツクラブ・ダニューピオ（オーストリア）
KSクラコビア・カラカウ（ポーランド）ラピット・ブカレスト（ルーマニア）スティンタ・ブカレスト（ルーマニア・前回選手権者）スパルタク・プラーグ・ソコロボ（チェコスロヴァキア）筆者注、ヨーロッパカップは、各国の選挙権チームによる試合でナショナルチームによるものではない。

山口国体から全種目7人制

～教職員の部の新設有望～

鷲尾武治（共同通信社）

日本ハンドボール協会は10月23日、倉敷市で全国評議員会を開き、「第18回国体（山口）の一般男子、高校男子の11人制を廃止し、7人制を行なう」ことを明らかにした。（注＝全日本総合全日本学生、学生リーグおよび全国高校は11人制）。これは協会内部からの要望と、昨年、ことしの二度のヨーロッパ遠征で、7人制がさかんであること、11人制がすたれていること、スピードがあり、観客の動員が簡単であることなどが、7人制に踏み切ったものである。

満場一致で7人制

▽…第17回国体（岡山）は10月21日から岡山県下で開かれた。高校は22日から一斉に始まり、ハンドボールも倉敷市の四コートで行なわれた。22日の競技は一般男子、一般女子、高校女子の三種目で、会場には多数の観客が集まった。ところが一般男子（11人制）の会場には観客が集まらず、7人制の女子のゲームに集中した。これは7人制がスピードがあり、スリルに富んでいるので観客をひきつけたものである。協会は国体開会の前に東京で常務理事会を開いて、7人制の切り替えについて協議してきた。日本のハンドボールを全部7人制にすることは時期尚早という意見も出て、結局国体からいちばん先きに手をつけようという結論に達した。そこへ22日の競技を見て、11人制はまったく見向きもされず、7人制の人気が圧倒的に多かった。このため協会は10月23日評議員会の議題にこの7人制を提案した。席上高嶋理事長は

① ファンのセンスはゲームの見やすい方へ行く。
② 一般男子の場合、練習不足によるコンビのまずさから個人プレーに走りがちである。これでは11人制の妙味がない。
③ ヨーロッパは11人制が後退している。
④ 中学生の大半は7人制に集まり、11人制を敬遠している。
⑤ 7人制は攻撃防備を一緒にやる。
⑥ 観客が集まることによってハンドボールは普及する。観客動員は7人制の方が簡単である。
⑦ スピード、スリルがある。

と説明した。同評議員会は満場一致で賛成し、第18回国体（山口）から全種目7人制実施が決まった。事務当局は37年1月の全国評議員会までに実施案を作成し承認を得る運びとなった。

ワク内（参加人員）で操作

▽…山口国体から7人制になると、参加チーム、参加選手数はどうなるのか。国体要項に決められた岡山国体の参加人員は次のとおりである。

（岡山国体参加人員）

	人 チーム	人
一般男子	13×32＝	416
一般女子	11×10＝	110
高校男子	13×12＝	156
高校女子	11×10＝	110

計　64チーム＝792人

岡山国体の参加人員792人が山口国体にも適用されるとなれば、全種目7人制だから岡山国体の64チームから8チームふえて72チームとなる。この72チームはどういう形で配分されるか。これが大きな問題である。配分方法はいろいろある。

Ⓐ 教職員を新設、5種目の参加チームを各14チームとする。
Ⓑ 一般男女を15チーム、その他を14チームとする。
Ⓒ 現行の4種目のままとする。
Ⓓ 一般男女を多くする。
Ⓔ その他

	A案	B案	C案	D案	E案
一般男子	14	15	18	27	21
一般女子	14	15	18	15	15
高校男子	14	14	18	10	12
高校女子	14	14	18	10	12
教職員	14	14	0	10	12
計	70	72	72	72	72
人員	770	792	792	792	792

国体7人制の波紋

① A案の教職員の新設はハンドボールの底辺を広げる意味で絶対必要なことである。小、中学校生徒、競技人口をふやすには教職員の開拓にかかっている。現在全日本教職員選手権大会があるが、参加費用はすべて自己負担となっている。これが国体参加になると都道府県の費用でいい。これが教職員にとっては魅力である。また7人制なので軽い気持でハンドボールに飛び込んでくることもじゅうぶん考えられる。さらに勤務先の学校の体育館で練習できるし、7人制なので人が集まりやすい。以上のように教職員への普及は容易であること。ただ難点はA案の場合現行の参加人員のワクを下回ることである。

② 参加人員のワクをまもるなら、残りの2チームを一般男女にふり向ければいい。

③ 教職員の部の新設が時期尚早なら、国体委員会の承認を得るまで、参加人員のワクをそのまま生して四種目とも18チームにする。

④ D案は国体が国民の体育のため、社会人体育のためにあるなら一般男女を優遇すること。高校、教職員を最低に抑えて一般男子27同女子15とする。

図(2)

	A(5種目)案	B一般男女案	C(4種目)案	D(一般男子)案	D(一般女子)案	E(一般男子)案	E高校教員案
北海道	1	1	1	1	1	1	1
東北	1	1	2	3	1	2	1
関東	2	3	2	5	3	4	2
東海	2	2	2	3	2	2	1
北陸	1	1	2	3	1	2	1
近畿	2	2	2	4	2	3	2
中国	1	1	2	2	1	2	1
四国	1	1	2	2	1	2	1
九州	2	2	2	3	2	2	1
開催地	1	1	1	1	1	1	1
チーム数	14	15	18	27	15	21	12

(図2)のうちB案の関東3を、東京1、その他の県で2ということも考えられる。とくに東京の一般女子は大崎電気、レナウン工業、日体大、それに37年4月にはジューキミシンが発足する。東京は日本で最大の激戦地となる。大崎電気は37年に埼玉県に工場を新設するので、激戦地の東京都を離れて埼玉県から出場することもあり得る。実業団チームは日本ハンドボール発展のためにチームづくりに努力し、そして国体をめざしているのだから、協会としてもこの点をじゅうぶん考えてチームの割り当てをすべきだと思う。東海地区に愛知紡(愛知)、田村紡(三重)、大阪にレナウン工業がある。実業団育成の大きな目標をかかげているのだから、東京都、愛知県、大阪府の三都府県を一地区として認める方法もある。とにかく山口国体から実施するのだから、私案よりもさらにすばらしい試案—実施案が出ることを期待したい(11月15日記)

稲石桜台高監督(愛知)の話 わたしは賛成できない。第一に11人制と7人制とは試合の内容、性格が違う。インターハイをとるか、国体をねらうかといえば、やはりインターハイである。

佐野神代高監督(東京)の話 インターハイが終わって一週間後に国体予選だ。こうなるといままで11人制の選手を、すぐ7人制に切り替えなくてはならない。技術的にむずかしい。理想的なのは11人制、7人制の二チームを持つことだ。神代高としてはどちらを選ぶかはこれからゆっくり考える。

今野大崎電機監督(東京)の話 実業団チーム育成のためには7人制がいい。うちのチームは11人制が主体なので、国体の7人制にはちょっと困っている。全日本総合(11人制)から国体予選まで期間がない。こうなると年次計画をたてて、両方やれる選手を養成しなければならない。

小袋福岡県理事長の話 7人制には賛成です。実業団を育成するには7人制がいいし、人も集めやすい。だれでもとび込める。試合時間は短く、グラウンドも小さくていい。さらに室内でもできるのが魅力だ。

若崎国体審判長(神奈川)の話 倉敷の国体を見て、7人制にすべきだと痛感した。クラブチームを見ると個人プレーが多く、11人制本来の走ることを怠っている。これは練習不足と、コンビネーションがとれていないからだ。試合におもしろさがない。倉敷のゲームで7人制にはファンが山のように集まる。これはスピードがあっておもしろく、グラウンドが狭いから見やすい。逆に11人制はファンが少なく、見にくい。評議員会で7人制と決まったから、山口国体はさらによくなると思う。

渡辺大崎電気社長の話 全日本総合選手権(11人制)の日程を一ヵ月繰り上げれば、国体予選までには7人制の練習がじゅうぶんできる。

7人制一本化に近ずく？

影響大きいヨーロッパの動き

杉　山　　茂
（NHK名古屋）

10月23日倉敷で開かれた全国評議員会は、来年山口で開かれる第18回国体のハンドボール競技は男子二部門も7人制で行うことを決めた。7人制一本化という問題が内外で大きな注目をあびているとき、国体を7人制に切り替えた。これは日本のハンドボール界のこれからの道を暗示しているようで、単に国体の内容が変わったというだけの問題ではなさそうである。

ハンドボールといえば、サッカーの逆と説明していた時代はもう昔の話。いまのハンドボールは昔からの11人制と、最近は7人制を主に室内で行なうと説明しなければならなくなった。

ところが本家ともいうべき11人制が、近ごろ、新興の7人制にどうも押され気味。というよりは指導者や協会の首脳者、それにプレーヤーまで新興の7人制を支持する傾向にある。これは国際的にも、国内的にも強くなってきた。とくに北欧諸国でこの傾向が濃い。7人制を支持するのは、サッカーが熱狂的な関心を集め、ことにプロサッカー、セミプロサッカーが10万を越すファンを集めている実情を真のあたりに見ているからだ。フィールドスポーツとしてハンドボールは、サッカーの魅力に勝てそうもない。これが7人制を興隆させる大きな原因となっているわけだ。

しかも、7人制はダイナミックだ。スピードもある。スリルもある。近代スポーツの持つ条件にまさにぴったりである。ハンドボールは11人制よりも7人制の方がおもしろい。〃見た目〃のよさも手伝って、ヨーロッパ各国では、室内スポーツとして7人制ハンドボールに力を入れてきた。その人気と関心のほどは、世界選手権に出場した日本の女子選手の口からもうかがえる。(本誌前号座談会参照)

一挙に陽の当たるスポーツに

こうした国際的な傾向は、当然のように日本のハンドボール界にも伝わって来た。まして、日本のスポーツ界にあってこれまでのハンドボールは、かならずしも〃陽の当たる場所〃にはいなかった。だから7人制を成長させるというムードは、ヨーロッパ各国よりも、条件がそろっていた。

日本スポーツ界でハンドボールがマイナー・スポーツに甘んじなければならない理由は、スポーツとして名乗りをあげた時期があまりにもおそかったのである。

日本ハンドボール協会が日本体育協会に加盟を承認されたのは昭和13年5月。すでにこのとき、ボールゲーム（フィールドスポーツ）はサッカー、ラグビー、ホッケー、バスケットボール、バレボールなどがあった。サッカー（日本蹴球協会）が創立された大正10年から20年近い歳月が経っていたのである。この出おくれは、日本におけるハンドボールの宿命となってている。現在でも、一般の支持が少ない。スポーツジャーナリズムの関心が薄いといった具体的なハンディキャップ。オリンピック東京大会の正式種目からどたん場ではずされてしまうという悲運さえ招いた。

話は横道にそれたが、ともかく、日本でも7人制の登場いらい、ハンドボール界は11人制か、7人制かの問題に多くの関心が集まった。当初の「あくまで11人制が主、7人制が従」から、「両者の併行」さらに「女子、中学は7人制一本化」へと進んだ。遂に「7人制一本化説」まで表面に出る急速な変化を見せてきた。

日本で7人制が支持されるのは、チーム増加が容易なこと(普及面)、11人制が中盤戦の攻防のなさに比し、7人制は勝敗的興味、試合内容の興味も一般的である。しかも高度の技術、体力、スピードが必要なこと（技術面）の二点が主である。

7人制登いらいチーム数が増えた。これは事実である。

とくにハンドボールに実業団が生まれたのは7人制によるところが大きい。7

人制が無ければ、実業団が現在のように、短時日に軌道に乗らなかったのだろう。

観衆が集るのも魅力

技術面としてあげた理由は簡単にいえば、〝見た目〟のよさである。7人制ハンドボールはおもしろいという感じ方は、昭和29年に大阪で最初に全日本総合室内選手権大会が関かれたときから、スポーツジャーナリズムや一般の間で起こっている。「観集が集まる」というのも7人制の魅力の一つなのだ。

こうしてみると、日本ハンドボー界の将来性という点で、早い時期に7人制に一本化してしまった方が得策ではないかとの考え方が当然のように生まれて来る。

決断鈍らす11人制の伝統

しかし日本にも25年にわたる11人制の歴史がある。

日本のハンドボール界の主流である高校界、クラブ界は、11人制によって生まれた。そして伝統を築きあげてきた。世界的に11人制が姿を消すならともかく、おとなりの韓国では中学でも男女7人制、11人制を併用している。

こうした11人制健在のニュースは、やはり日本のハンドボールをいますぐ7人制一本にしてしまう決断を鈍らせたようだ。

11人制の持つ広々とした感じ、豪放さといった魅力は、7人制の持つ魅力よりはるかに優れている。11人制をしてこそ、初めてハンドボールの真随に触れることが出来る。

西独、ルーマニアの見せた技術、体力、スピードは、たしかに11人制か、7人制かという問題を、単に〝見た目〟だけで判断することの危険を教えた。

あの技術、体力、スピードを備えたチームが数多く生まれれば、決して11人制がつまらないという考え方は起きて来ない。日本でも全日本各大会の上位戦などは観衆を湧かすスケールの大きいスポーツとしての魅力を存分に発揮しているのである。

カギ握る？　学生界

大勢は7人制を支持しながらも、当分の間は決着がつかぬ状態が続きそうだ。

高校界、学生界にオフィシャルな7人制の大会が一つもない。

7人制一本化にするカギは学生界の動きいかんだという声もうなずける。

当分決着がつくまいといいながらも、全国評議委員会で、極めてスムースに7人制の支持を得た。7人制一本化への動きが、また一歩強まったと見てよさそうである。そのうえこの問題は単に日本だけの問題ではない。IHFとしても、最大の問題だけにヨーロッパ各国の動きも相当影響が大きいものと思われる。

ただよう一本化ムード

倉敷で高嶋理事長は「すでにフランスをはじめ、いくつかの国が11人制を徹廃している。日本でも、今回の決定はやがて7人制が主流となる」と話している。さらに馬場副会長は「当然こうなるべきであって私としては大賛成だ」という。

この二人の意見は、日本のハンドボール界のこれからの道をはっきり暗示しているようである。

国体の競技から、7人制一本に切り替えを試みた協会の慎重なアドバルーンは、はたして7人制一本化説の促進になるか興味のある問題だ。早ければ、来年が日本の11人制の最後の年になるかも知れない。このムードが、すでに国内ハンドボール界にただよいはじめているようだ。

学連も7人制(秋)採用をきめる

全日本学生ハンドボール連盟では、11月23日の全国総会で来年度からこれまでの11人制のほか7人制の採用を決定

一、春の公式戦（リーグ戦など）は11人制
一、7月に11人制の全日本学生王座決定戦開催
一、秋の公式戦（リーグ戦など）は7人制
一、全日本学生選手権は7人制に改制し11月下旬に行うなどを申し合わせ、発表した。

【解説】　来るべき時が来た、という感じである。中沢学連理事長(芝工大出)は、「日本協会が七人制統一への傾向を打ち出しており、2、3年後には7人制に一本化するだろうと語っており将来を見越しての処置としては学連は当然の態度を採ったといえよう。春を11人制、秋を7人制とシーズンの確立を示したのも当を得ている。

残された問題は7人制を屋外7人制とするか室内7人制にするかである。理想は後者であろうが室内スポーツとして擡頭するには、すでに長い歴史を持つバスケットボールの存在が大きいだけに、会場（体育館）の獲得がカギとなつて来よう。

なお、学連のこの決定で、国内の7人制一本化への動きはさらに促進されたと見てよい。（駒沢球治郎）

安達精太　市原則之　谷義信　勝繁夫　渡辺一巳　棚橋義輝

元旦からスェーデンで開かれる第一回世界学生選手権大会に日本からも代表チームが参加する。参加チームは棚橋団長以下十七名で、十二月十四日羽田発エールフランス機で勇躍壮途についたが、16日ハンブルグ選抜チームとの第一戦を皮切りに、ドイツなどで数試合親善試合を行なった後、元旦から6日までの世界選手権に出場、一月十六日に帰国する予定である。

学生選抜チーム、欧州（スエーデン）へ

元旦から、第一回世界学生選手権大会

代表の紹介

団長　棚橋義輝

〔横顔〕学生スポーツ界の王者中央大学の学友会幹事として、同大学スポーツ団体を指導する地位にあった経験はあるが、自分自身選手として活躍したという体験はない。けれども、この期間にえたスポーツに対する理解と知識には、なまじな専門家はだしの深いものがあったし、工専時代の芝工大に特殊な関係をもっていた様な関係もあって、戦後中大にハンドボール部がはじめられるに際して最適の部長として迎えられ、同部をして今日の隆運を招くのに大きく貢献している。山本嘉次郎によく似た温和な風ボウからも察せられる様に、実に温厚篤実な人柄であるうえ、長い教壇生活や、又学生部副部長として学生補導にタッチしたことがあり、人事部長として学生の就職に専念したこともあるので若い学生選抜チームの統率者としてはまことにうってつけの感がある。法律学者たろうとして大学院生活を送ったことがあるくらいだから中々の理論家でもあって、いわゆる情理兼ね備えた近来の名団長になるだろうと大きな期待が寄せられている。

〔略歴〕新潟県長岡市出身、中央大学総務部長、同講師、東京都中野区上高田一の七、五八歳、関東学生ハンドボール連盟会長。

監督　渡辺一巳

〔横顔〕関学の渡辺と云えば、泣く子もだまると云われている位、恐れられている彼だ。正しいと信じた事ならば、相手が誰であろうと食いついていく、正義感に溢れた熱血漢である。だから反面敵も多い。そこが彼の長所であり、短所でもある。関学の誇る王座決定戦における6連勝は彼の現役時代の3勝、監督時代の3勝と云う事からみれば、まさしくこの輝かしい記録も彼なくして勝ち得られなかったと云っても過言ではない。選手として監督として、これら豊富な経験の持ち主であり、指導力統率力ある彼故、今回の遠征は腕の見せ所となるだろう。現在ディリースポーツ新聞関西本社の運動部次長として敏腕をふるい、一方家庭では一男一女のよきパパである。

〔略歴〕関西学院大学出身、ディリースポーツ新聞関西本社運動部次長、関学監督、三三歳、大阪市大淀区中津南通り三の四

コーチ　勝繁夫

〔横顔〕豊中中学時代は今回同行する渡辺監督とともに名ウィングとして活躍第一回国体に優勝するなどその名を馳せた。日体大に進んでからも生来の素質と経験にモノをいわせて幾多の優勝をもたらし、その後立教大に進学、現在は立教大に体育教官として勤務するかたわら、同校の監督として豊富な経験を生かしているが、温厚な性格と大きな抱擁力は現役選手に絶体の信用を買い、いまでは立教大学ハンドボール部にはなくてはならない存在となっている。今回はコーチの上にマネージャーの仕事までせねばならない忙しい遠征だが、内に秘めた熱烈なファイト、粘りを知るものにとって立派にやり遂げられる事は断言できる。

〔略歴〕立教大学出身、現在立教大学講師、東京都杉並区高円寺三の二二七、立教大学監督、三三歳。

選手　谷義信

〔横顔〕学生ハンドボール界の雄芝浦工業大学から選出されこの選手団の主将を務める。体こそ目立って大きくはないがジャンプ力とカンの良さは、これまでの日本ハンドボール界の幾人かの名GKの中でも屈指の折り紙をつけられている。また練習熱心で主将としての役割を立派に果たし全選手をよく引っぱっている。性格が大まかな様だが、よく気が付きこの選手団のけん引車となっている。世界学生ハンドボール選手権大会の彼の活躍は期待されてよい。

〔略歴〕大阪府立桜塚高校出身、現在芝浦工業大学建築学科四年四人兄弟の二男、身長一七三体重六五、二二歳、現住所東京都世田谷区深沢町滴水寮。

選手　市原則之

〔横顔〕高校時代はハンドボール、ボクシング、柔道等をやった男で、ハンドボール界ではめずらしい有段者である。それだけに人一倍大きく現在の日本ハンドボール界ではおそらく最長身ではないだろうか。広島商科大学の三年生だ。試合の得点をほとんど一人で決めているエースである。長身の上に体のバランスがとれているので、球速、球の重さは外国選手並み。それだけに彼のプレーの活躍が期待される。山陽の生れで一見おっとりしているが一度グランドに出ると人が変わった様になり、ファイトの塊である。時々とっぴもない事をいって人を笑わせ皆んなの人気の的である。

〔略歴〕山陽高等学校出身、広島商科大学三年、身長一七九体重七五、広島県賀茂郡八本松町原

大高恒貴　荘林康次　藤原侑　諏訪紀一　浅野和郎　坂井弘元

遠征スケジュール

37年12月14日（金）	羽田発	AF#271	22時30分
15日（土）	ハンブルグ着		6時55分
ドイツ国内	ハンブルグ滞在		
16日（日）	ハンブルグ選抜チームと対戦		
17日（月）	ブレーメン滞在		
18日（火）	ブレーメン選抜チームと対戦		
19日（水）	デュセルドルフ滞在　西ドイツ地区の選抜チームと数試合		
（スェーデン国内）29日（土）	マルモ着　ルントに入る　休養		
昭和38年1月1日（火）～6日（日）	選手権大会参加		
7日（月）～13日（日）	カルルスクロナ、カルマー、ヴァクジエ各都市にて親善試合。ストックホルム発　AF#795　パリ着　休養		
15日（火）	パリ発	AF#170	
16日（水）	羽田着	AF#〃	20時15分

◇世界学生選手◇

参加国　ブルガリア・デンマーク・日本・ノールウェー・ルーマニア・スペイン・西ドイツ・スェーデン

試　合　Iグループ　デンマーク・日本・スペイン・スェーデン
　　　　IIグループ　ブルガリア・ノールウェー・ルーマニア・西ドイツ

1月1日	ブルガリア対西ドイツ	ルントにて
	スェーデン対日　本	〃
	ノルウェー対ルーマニア	クリスチャンスタンドにて
	デンマーク対スペイン	〃
1月2日	スェーデン対スペイン	マルミヨにて
	ブルガリア対ルーマニア	〃
	デンマーク対日　本	ヘッスレホルムにて
	ノルウェー対西ドイツ	〃
1月3日	休　み	
1月4日	スェーデン対デンマーク	ヘルシングボルグにて
	ノールウェー対ブルガリア	〃
	日本対スペイン	ハルムスタッドにて
	ルーマニア対西ドイツ	〃

（このI及びIIグループでのリーグ戦の結果それぞれのグループの同順位チーム同士が互に以下の順位決定戦を行う）

1月5日	5,6位，　7,8位決定戦	
1月6日	3,4位決定戦	優勝戦

選手　安達精太

〔横顔〕　中学時代に柔道をやり、高等学校に入りその後ハンドボールに転部する。それからというものすっかりハンドボールにとりつかれ、鎌倉学園時代にはインターハイに出場準優勝、国体優勝の原動力として活躍した。また高校チームながら全日本室内選手権大会に出場第三位になり、ハンドボール関係者に竹野二世と騒がれた。その後立大に進み、すぐに立大のレギュラーとなり、立大を二部から引き上げる原動力となり、現在は関東大学の第一人者として活躍中。

〔略歴〕　鎌倉学園卒、杉並区下高井戸二の六二五、立大ハンドボール栄光寮・175cm 70kg　立大法学部三年、旧姓小野、二一歳。

選手　坂井弘元

〔横顔〕　中学時代はサッカー選手、高校でもやろうと思ったがあいにく高校にサッカー部が無かったので、なんとなくハンドボール部に入ってしまったのがそもそもの動機。それが段々と面白くなり、とうとう大学迄やって来た。九州は熊本済々黌の出身で、持ち前のネバリと根性で先輩の竹野（済々黌日体出現大崎電気）さんを手本とし日夜練習に励んでいる。高校、大学ともバックをしており、フリースローのカット、と反則の数の多い事は有名である。また時おりバックから攻撃に加わりたくみにフェイントを使ってシュートするこの成功率は敵、味方とも高く評価している。特技、渋いマスクからのガールハントも成功率が高い。

〔略歴〕　済々黌出身、現在中央大学商学部三年、4人兄弟の3番目、身長174、体重68kg、年齢二〇歳、現住所北多摩郡久留米町門前二九五中央ハンドボール部寮

選手　浅野和郎

〔横顔〕　今東光の作品で知られる河内の人間だが、通称「オッサン」で通る様な非常に柔和な好青年である。しかし一度ゲームになると、相手体力強肩にモノをいわせて、相手をてこずらせる、大阪の名門高津高校一年の時、知人がハンドボールにいるからというのが動機となり、ハンドボールに飛び込んだ。天性の体力と頭脳的プレーにみがきをかけ、その後京都大学に進み、天性の体力と頭脳的プレーにみがきをかけて、三十七年度秋季関西リーグ戦において、京都大学を第二位にのしあげる原動力となった。現在倒れ込みをマスターしようと、県命に努力している。

〔略歴〕　高津高等学校出身、京都大学在学中（二一歳）FW、九番身長一七三、五cm 体重七三kg、現住所八尾市山本町南三の六五

選手　諏訪紀一

〔横顔〕　東京に生まれ東京に育った生粋の江戸っ子で浅草台東体育館近くの寺島町に住み名門慶応義塾大学に在学同塾ハンドボール部の生っぷのよい江戸っ子主将として、またIFとして活躍している競技歴三年半というから大学入学後ハンドボールをはじめたことになる。それにもかかわらず、持ち前の正義感あふれるプレーと品位あるグランドマナーは全関東ハンドボールメンの範とされその短い競技歴を補って余りある。慶応高校時代の野球を生かしたキビキビした動きとファイトあふれるダイビングシュートは今回の遠征軍のみせどころとなろう。こんな彼にも今二つの悩みがあるらしい。一つはいくらうまいものを食っても体重が61kg を越えないこととももう一つは卒業まであと十数科目も残っていることである。

奥本義昭

田口敬蔵

中根敏男

与縄義昭

森末和裕

村田陽之

〔略歴〕慶応義塾日吉高等学校慶応大学、大学に於けるポジションFW、身長172cm 体重61kg、年令二二歳、現住所、墨田区寺島町二の五三

選手 藤原侑

〔横顔〕男も女もホレルというのはこの男を指すといっても過言ではなかろう。一見やさしそうだが根性もスタミナも人一倍。山口県多々良学園高校出身でバスケットボールのキャプテンとして活躍日体大入学後、荒川監督の下でハンドボールを始めたハンドボール部に入った動機はスピーディーであり面白さがあるといった点だそうだ。世はすべて適材適所が叫ばれている現在まさにピッタリ、今回の世界ハンドボール選手権大会はもちろん今後各種のハンドボール大会で彼の存在並びに占める役割は計り知れないものがある。

〔略歴〕山口県多々良学園出身日本体育大学三年、身長172cm 体重62kg、東京都世田谷区深沢町三の五四、日体大ハンドボール合宿所

選手 荘林康次

〔横顔〕中学時代担任の先生がハンドボールの部長であったのがハンドボールの始めた由縁、以後現在に至るまでハンドボールと共に暮している。高校時代には大阪代表として全日本高校ハンドボール選手権大会、東西対抗に出場している。趣味は多彩だが一例をあげると自動車免許を有し特に英会話に興味を持つ点は強味。ダンスのマスターが今後の課題だそうだがモットーは〃心の大きい人間になれ〃とか来年から貿易商社に入社して外国で大いに活躍したいという夢を持っている。今回は副将と云う大役を負わされたが、得意の英会話は大いに威力を発揮することだろう。シュートはひっぱりの下が得意である。

〔略歴〕神戸大学四年、身長172、体重64、二三歳、大阪府堺市浜寺諏訪森町東二の一三〇

選手 大高恒貴

〔横顔〕中学校に野球部がなかった一年からハンドボールをやり今年で九年である。彼は一口にいって非常に練習熱心な男である。池田高校時代には女子学生にドンファンとあだなされ騒がれたが、甲南大学ではハンドボールに追われてそんな暇はないとか。特技はマージャンが非常に強いということ、関学の村田と中学校、高校が同窓であり、そろっての世界選手権出場だけに感慨も一しおとか。

〔略歴〕甲南大学在学、身長170、体重60、二〇歳、大阪府豊中市清風荘二の一四

選手 村田陽之

〔横顔〕一口にいって、彼は全くタフな男である。今度の遠征チームの中でもっともタフガイだろう。そのタフさは、中学・高校全学年を通じて、マラソン種目ではトップを維持したということで証明されよう。また人間的な面ではその仕事熱心さを買われて、今年度の関西学生ハンドボール連盟委員長に選ばれている。現在関西学院大学ではLHであるが出身高である学大池田付中及び府立池田高校時代はFWであったため攻守両面に活躍出来る強味を持つ。兄弟がないせいかすぐ友だちが出来そうなきさくなタイプの人間で全くのスポーツマンである。

〔略歴〕大阪府立池田高等学校出身、関西学院大学商学部四年、身長169、体重64、二二歳 現住所池田市中之島町一一

選手 森末和裕

〔横顔〕通称はないというのだから見た通りの固い男である。ハンドボールを始めた動機は、中学一年の時友人に誘われて。そのまま現在に至っている。高校時代は国体に連続三回出場し、15回大会では準優勝の栄を受けた。競技歴が物語る様に、経験は豊富であり、その上、関西の雄関西学院大学で鍛えられただけにキビキビした動作に終始し、オーソドックスなプレーを身上としている。とに角、ファイトを内に密めた正確なプレーを見せてくれる、おとなしい、いい男である。

〔略歴〕兵庫県立明石高等学校出身、関西学院大学在学(二年)、身長167cm、体重60kg、四人兄第の長男、フォワード、ライト・インナー、兵庫県明石市大蔵町八の三七四六

選手 与縄義昭

〔横顔〕通称〃ヨンベ〃大学では田舎臭いということ。初めての人には彼の名前は聞き取りにくい様で沖縄あたりを連想させる名だ。ハンドボールを始めた動機は中学三年の時チームに欠員が生じ、その穴埋めとして入部したそうだが高校時代は高校ハンドボールの名門済々黌出身だけにすべて本モノだ、現在立教大学に学び東京生活も三年を迎えようとしているが、入学する時に絶対東京弁は使わないと心に決め今では彼の熊本弁は部公認となつて居り他の部員達も面白半分に熊本弁を用いるくらいだそうである。

〔略歴〕熊本県立済々黌高校出身 立教大学、身長166、体重60kg、東京都杉並区下高井戸二の六二五栄光寮

選手 中根敏男

〔横顔〕愛称〃勘九郎〃といい目鼻、口すべてがよく似ている、名門鎌倉学園出身でインターハイでは中京商業に決勝で敗れはしたが第十四回国体に見事初優勝をさせたチャンスメーカー。いまは立教大学で小野とコンビを組み圧倒的な得点力を誇っている。彼はまた万能選手でスキーなど特に得意だ身長一六四センチという小兵であるが非常なファイターだから何をやっても誰れにも負けない。世界選手権でも体力的ハンディをカバー、存分に活躍することだろう。

〔略歴〕鎌倉学園高等学校出身、立教大学、身長164、二一歳、神奈川県横浜市戸塚町二二

選手 田口敬蔵

〔横顔〕いまは高校ハンドボール界ですっかり有名になった東京都立神代高校の出身。第十四回国体には第三位になる活躍をあげている。身長153センチ、ちょっと運動選手として考えられない小身だが、ところが山しよは小つぶでなんとかのようにいかにも敏しよう法大のCFをこなす巧技の持ち主だ。今回の選手団中でももちろん一番のチビ。世界選手権では新聞紙上をにぎわすことにもなろう。世に小さいやつはケンカ早いというが、どうして絶対怒らないのが彼の特技である。いつもニコニコ、とかく殺風景な選手団の中にあっては気持ちをやわらげる意味でも貴重な存在。外人相手に通用するかですって？失敬なまあみていて下さい。

〔略歴〕神代高校出身、現在法政大学経済学部三年、三人兄弟の長男、身長153、体重55、年令二一、現住所武蔵野市吉祥寺北町二の一五七八

選手 奥本義昭

〔横顔〕通称オクサンの名で知られ名門中京商業の出身でインターハイ、国民体育大会の二大タイトルをはじめて取る等輝しい球歴を持つ、馬でいえばサラブレッド。現在同志社大学GKとして先天的なカンときたえられた体力にモノをいわせ大活躍。同大二年連続西日本王座獲得の原動力となった。日常生活は一見スローモーでどこにあのゴール下での鋭敏さがあるのかと疑がわせるが、こせこせしないその応ようさが魅力になっている。

〔略歴〕中京商業高校出身、同志社大学、京都市左京区山端川端町三八

1962年10大ニュース

本誌編集部は1962年1月から1962年12月19日までにハンドボール球界に起きた10大ニュースを選んだ。ことしは昨年の男子に次いで女子チームの世界選手権大会出場，高校チーム（男子）の韓国遠征ユニバシアード初参加を決定，国際連盟総会に出席など海外交流が多い。また国内にあっても男女実業団チーム，芝浦工大，桜台高の活躍があった。

1. 第2回世界女子選手権に出場

7月7日から15日までルーマニアのブカレスト、ウラソフ、シビウ、プロイエスチの四都市で開かれた。参加国はルーマニア、デンマーク、チェコ、ユーゴ、ハンガリー、ソ連、ポーランド、西独、日本の9カ国。日本は第一次リーグB組に出場し、ハンガリーに17—8、デンマークに12—7で負け7・8・9位決定戦でもポーランド、西独に敗れ4戦4敗で最下位となった。

日本チームは出口副会長を団長に高嶋監督ら役員6人、選手は愛知紡、大崎電気、レナウン工業、大洋デパートから15人を選抜して編成した。

2. 山口国体から全種目7人制

日本ハンドボール協会は10月23日倉敷市で全国評議員会を開き、「第18回山口国体（昭和38年）から国体の11人制を廃止して男子も7人制を採用する。したがって全種目7人制とする」件を上程し、満場一致で承認された。これによって山口国体から全種目7人制となった。現在の国体参加人員のワクをそのままにするか、それとも減らすかは38年1月の全国評議員会で決まる。現状のままならチーム数をふやす案と、教員の部新設案の二つがある。協会が7人制に踏み切ったのは、昨年。ことしの二度のヨーロッパ遠征でヨーロッパは7人制がさかんなこと。また日本国内でハンドボール人口の増加、ハンドボールの普及には7人制が親しみやすいことによるものである。

3. 全日本総合で実業団（男女）が優勝

第14回全日本総合選手権大会は8月19日から山口県下松、徳山両市で開かれ、男女とも実業団チームが優勝した。これは球界初めてのこと。男子はいままで芝浦工大全日体大が優勝していた。男子の大崎電気は昨年、一昨年と決勝で芝浦工大に敗れたが、ことしは全日体大を破って初優勝した。三度目の正直である。女子は愛知紡が大洋デパートを押えて6連勝した愛知紡には世界選手権出場者5人がおり、ヨーロッパで磨き上げたプレーを見せた。愛知紡—大洋デパートの対戦成績は愛知紡の3戦全勝。

4. 芝浦工大、インカレで5連勝

第5回全日本学生選手権大会は7月22日から仙台市宮城野グラウンドで開かれた。芝浦工大は一回戦で教大（23—8）、準々決勝で岐阜大（28—10）、準決勝で立大（19—10）、決勝で日体大（12—11）を破り5連勝した。スケールが小さいといわれながらFWの北村、金山、越智、バックスの久保の活躍で学生の王座についた。この試合は芝浦工大にとっては負けられぬ一戦。それは関東学生春のリーグで日体大に3—7、リーグ優勝決定でも7—8と連敗しているからだ。1点を争うゲームとなったが日体大の追撃を見事断ち切った。

5. ユニバシアード、11人制世界選手権参加を決定

第1回世界学生ハンドボール選手権大会は38年1月1日からスウェーデンで開かれるが、日本学生連盟は参加することを決めた。日本チームは関東学連、関西学連ら全国から優秀な選手を選抜した。参加国は日本をはじめブルガリア、デンマーク、イスラエル、ノルウェー、西独、スペイン、スウェーデンの8チーム。また38年6月スイスで開かれる11人制世界選手権大会の参加を10月23日の評議員会で決定した。男子の世界選手権は昨年の7人制（西独）に次いで二度目。

6. 桜台高、全国高校、国体に優勝

桜台高（愛知）が久しぶりに高校のNo.1にのし上がった。全国高校選手権、国体と二度も決勝で神代高（東京）と対戦し、堂々と神代を破って二つのタイトルを握った。昨年の全国高校決勝でライバルの中京商と顔を合わせ、12—13と1点差で涙をのんだ。ことしは近藤、小川の活躍で全国高校国体といずれも五年ぶりに七度目の優勝。これは稲石監督の好指導が実を結んだもの。

7. 男子高校チーム、韓国遠征

日本高校選抜チームは8月29日から10日間韓国に遠征した。菅団長、徳永監督ら一行二十人。8月31日の第一戦を皮切りに各地で6試合を行ない。5勝1引き分けの成績をあげた。日本チームの韓国遠征は戦前の早慶連合チーム、昨年の日体大チームに次いで三度目

8. 大洋デパート、愛知紡を破る

第17回国体一般女子決勝で大洋デパート（熊本）が常勝の愛知紡を破って初優勝した。大洋は過去三度愛知紡に敗れており、四度目にやっと宿願を果した。愛知紡はこの1敗で公式戦の連勝記録は37連勝でストップ。

9. 日体大、春のリーグで優勝

関東学生春のリーグ戦第三日（5月5日）に芝浦工大を7—3で破って優勝への足がかりをつかった。結局日体大、芝浦工大ともに6勝1敗となり、優勝決定戦となった。日体大は前半5—3とリードし、後半芝浦工大の反撃をうまくかわして8—7と1点差で勝った。日体大の優勝は5年、10シーズンぶりで、芝浦工大のリーグ優勝10連勝をはばんだ。

10 関西学連、インカレに不参加

第5回全日本学生選手権大会（7月、仙台）に関西学連加盟の全チームが不参加を決めた。これは遠距離、旅費がない、練習不足の理由によるもの。桃山大は参加を申し込んでいたが、これも理事会の強い申し入れで参加を撤回した。

次点

①、同大、関西学生リーグ（秋）で5度目の優勝

②、自衛隊のハンドボール大会

大崎電気が二連勝

第17回国民体育大会は10月21日から26日まで岡山県下で開かれた。一般男子は予想どおり大崎電気（東京）が二連勝し、一般女子は大洋デパート（熊本）が常勝愛知紡（愛知）を破って初優勝した。高校男子は夏のインターハイと同じ顔ぶれとなり、桜台（愛知）が神代（東京）を押えて五年ぶりに七度目の優勝。高校女子は菊池農蚕（熊本）が稲沢（愛知）を1点差に押えて初優勝した。なお大崎電気は公式戦に29連勝、愛知紡の連勝記録は37連勝に終わった。（カット写真は閉会式の表彰チーム）

一般男子

▽一回戦

大崎電気（東京） 21（11―1, 10―1）2 高知クラブ（高知）
山口クラブ（山口） 23（14―2, 9―3）5 大曲クラブ（秋田）
明石高OB（兵庫） 14（6―5, 8―7）12 熊本クラブ（熊本）
全神奈川（神奈川） 21（9―6, 12―5）11 小松クラブ（石川）
三菱レイヨン大竹（広島） 23（10―11, 13―2）13 千葉クラブ（千葉）
京都クラブ（京都） 15（8―7, 7―2）9 清商クラブ（静岡）
住友化学菊本（愛媛） 14（1―1, 0―0 : 6―6, 7―7）14 函館サンダークラブ（北海道）
抽選勝ち
氷見クラブ（富山） 17（7―6, 10―6）12 全福島（福島）
大阪クラブ（大阪） 25（15―6, 10―2）8 全埼玉（埼玉）

全長野（長野） 12（1―2, 1―0 : 2―7, 8―3）12 福岡クラブ（福岡）
北陵会（宮城） 23（15―7, 8―6）13 奈良クラブ（奈良）
桐生クラブ（群馬） 16（9―9, 7―5）14 鵜ノ森クラブ（三重）
全岡山（岡山） 15（8―4, 7―7）11 足利球友会（栃木）
白堊クラブ（岩手） 23（10―5, 13―6）11 鹿児島クラブ（鹿児島）
全茨城（茨城） 21（10―2, 11―5）7 柏崎クラブ（新潟）
桜丘会（愛知） 19（10―4, 9―2）6 和歌山クラブ（和歌山）

▽二回戦

大崎電気 19（10―8, 9―5）13 山口クラブ
全神奈川 18（10―8, 8―7）15 明石高OB
京都クラブ 19（9―8, 10―9）17 三菱レイヨン大竹
住友化学菊本 19（10―5, 9―4）9 氷見クラブ

大阪クラブ 16（8―6, 8―5）11 全長野
桐生クラブ 21（10―6, 11―5）16 北陵会
全岡山 20（13―10, 7―9）19 白堊クラブ
桜丘会 25（14―6, 11―2）8 全茨城

▽準々決勝

大崎電気 18（9―5, 9―4）9 全神奈川
京都クラブ 11（5―6, 6―4）10 住友化学菊本
大阪クラブ 25（14―8, 11―7）15 桐生クラブ
桜丘会 21（9―7, 12―7）14 全岡山

▽準決勝

大崎電気 22（11―3, 11―7）10 全京都

（大崎）		（京都）
福本	GK	吉田
高森 高橋	FB	林佳 中村茂
村上 田口 高井	HB	堤 岩城 島本
金田 小谷内 宮原 井上 竹野	FW	中村貴 川野 小西 藤本 佐竹
（坂野）		（林東）
24	シュート	23
33	反則	16
6	14メートルスロー	6

（評）大崎は速攻の連続で京都をダブルスコアで破った。京都のウイークポイントである右サイドから攻撃をかけ着々得点した。竹野―宮原―井上の呼吸がぴったり合い、前半11―7とリードした。京都も前半大いに善戦し、ダブルフェイントで大崎のデフェンスをゆさぶった。後半は大崎のペースとなり、京都のドリブルによるフェイント戦法も効かなかった。

大阪クラブ 15（8―5, 7―5）10 桜丘会

優勝チーム一覧

回＼種別	一般男子	一般女子	高校男子	高校女子
第1回	全関西	豊中高女OG（大阪）	豊中中（大阪）	豊中女（大阪）
第2回	大阪ク（大阪）	大阪女子ク（〃）	天王寺中（〃）	茨木女（〃）
第3回	全九州	大阪ク（〃）	天王寺（〃）	春日丘（〃）
第4回	東京ク（東京）	〃（〃）	〃（〃）	岡山第一（岡山）
第5回	福岡ク（福岡）	青陵OG（岡山）	足利（栃木）	春日丘（大阪）
第6回	大阪ク（大阪）	岡山ク（〃）	桜台（愛知）	青陵（岡山）
第7回	〃（〃）	青陵ク（〃）	〃（〃）	稲沢（愛知）
第8回	〃（〃）	北星ク（北海道）	〃（〃）	〃（〃）
第9回	東京ク（東京）	大阪ク（大阪）	済々黌（熊本）	寝屋川（大阪）
第10回	山口ク（山口）	稲沢ク（愛知）	桜台（愛知）	明善（福岡）
第11回	桜丘会（愛知）	明善ク（福岡）	〃（〃）	熊本市立（熊本）
第12回	大阪ク（大阪）	全愛知ク（愛知）	〃（〃）	静岡城北（静岡）
第13回	芝浦ク（東京）	寝屋川ク（大阪）	氷見（富山）	水海道二（茨城）
第14回	大阪ク（大阪）	〃（〃）	鎌倉学園（神奈川）	熊本市立（熊本）
第15回	桜丘会（愛知）	愛知紡（愛知）	中京商（愛知）	半田（愛知）
第16回	大崎電気（東京）	〃（〃）	兵庫工（兵庫）	水海道二（茨城）
第17回	〃（〃）	大洋デパート（熊本）	桜台（愛知）	菊地農蚕（熊本）

（桜丘）		（大阪）
渡辺	GK	小河
堀、伊藤	FB	八田、山淵
角井、榎、豊島	HB	服部、藤原、東
浅野、服部、山田、尾之内、高村	FW	青木、市場、村中、今藤、井上
（斎藤）		（深江）
29	シュート	33
23	反則	19
5	14メートルスロー	2

（評）大阪はゴール前のパスワークが鋭く、確実なシュートで得点をあげた。桜丘会は得意の速攻がなく、個人プレーばかりで前半大阪のリードとなった。後半桜丘会はチャンスをつかみながら粗雑なシュートと、大阪GKの好守で逆転するに至らなかった。

▽三位決定戦

桜丘会 16（7―4、9―7）11 全京都

▽決勝

大崎電気 18（9―8、9―9）17 大阪クラブ

反	得	S	（大阪）			（大崎）	S	得	反
0	0	0	小河	GK		福本	0	0	0
7	0	0	八田	FB		高森	0	0	5
7	0	0	山淵	FB		高橋	0	0	6
1	0	0	服部	HB		村上	1	0	4
6	0	0	藤原	HB		田口	1	0	7
4	1	1	東	HB		高井	0	0	4
1	6	9	青木	FW		金田	4	3	3
0	1	1	市場	FW		小谷内	0	0	0
0	0	3	村中	FW		宮原	6	4	3
2	1	5	今藤	FW		井上	1	0	2
2	6	16	井上	FW		竹野	17	7	1
2	2	4	（深江）			（坂野）	4	4	1
32	17	39	3	14MT	5		34	18	36

（評）1点を争う好ゲームを展開した。前半13分までは4―3と大阪クラブがリードしていた。14分大崎電気は竹野のシュートで追いついてから試合の主導権を握った。15分金田、18分宮原のゲットで6―4と初めてリードを奪った。試合前大崎電気の渡辺社長、今野監督は「前半20分までに4点リードしたら勝てる。2点ぐらいだと苦しくなる」といっていたが、試合はこのとおりになった。大崎はバックスが弱い。大阪の縦の切り込みには手を焼いていた。前半でよかったプレーは28分大崎の竹野が中央をうまく割り、金田へパスした。金田はこのパスを早いモーションからシュートした。それと29分大阪クラブの深江がフリースローから一気にロングシュートして得点したプレーである。前半の見せ場はこの二つだけ。とにかく9―8で後半にはいった。13分には11―11、20分には14―14、23分には15―15とまったくの接戦。25分をすぎてから大崎の速攻がようやく出た。27分大阪ゴール前のローリングから竹野が左に回りながらシュート、28分またも竹野が中央からジャンプシュート、28分30秒宮原からのリターンパスをうけた坂野が右からシュートして18―15と3点アヘッドした。これで勝負がついた。しかし大阪クラブも必死になって反撃し、29分深江のシュート、29分30秒に青木の14メートルスローでその差1点に迫ったが万事休す。大崎は竹野が14メートルスローを失敗したのが苦戦の原因といえるが、それよりもバックスを強化しないかぎりこれ以上の成績はあげられない。

総合順位

▽**天皇杯順位** ①愛知②熊本③東京④岡山⑤大阪⑥山口⑦茨城⑧京都、富山

▽**皇后杯順位** ①熊本②愛知③岡山④大阪⑤茨城⑥富山、山口⑧秋田、宮城、東京、兵庫

2連勝の大崎電気チーム

愛知紡、38連勝ならず

一般女子

▽一回戦

富山女OG（富山）13（8―0、5―2）2 高知ク（高知）

涌谷OG（宮城）14（7―2、7―2）4 全函館（北海道）

▽準々決勝

愛知紡（愛知）21（7―0、14―3）3 涌谷OG

大阪ク（大阪）13（6―6、7―2）8 徳山ク（山口）

大洋デパート（熊本）9（4―0、5―6）6 富山女OG

全岡山（岡山）12（8―4、4―6）10 日体大（東京）

▽準決勝

愛知紡 9（3―4、6―3）7 大阪ク

（愛知）		S	得	反
GK	篠崎	0	0	0
	山崎	0	0	3
	宮本	3	0	5
	塚原	2	0	11
	山田	9	2	1
	青木	10	4	0
	沢田	5	3	6
	古谷	0	0	1
		29	9	27

（大阪）		S	得	反
GK	中村	0	0	0
	森口	5	1	1
	梶原	1	0	5
	桑原	7	1	4
	宮崎	9	2	2
	大西	4	3	8
	中西	0	0	2
	堀	0	0	1
		26	7	23

2 7MT 2

愛知紡の動きが鈍く、そこを大阪のベテランがうまくついた。このため試合は大いにもつれた。後半大阪はスタミナがなくなり、愛知に立ち直させるチャンスをあたえてしまった。大阪の善戦は賞されていい。

大洋デパート 11（4―2、7―3）5 全岡山

（大洋）		S	得	反
GK	木原	0	0	0
〃	徳富	0	0	0
	立山	2	2	4
	徳永	7	0	2
	山口	0	0	0
	千原	1	1	10
	西村	11	4	4
	久連松	4	3	5
	桜木	2	1	8
	安藤	0	0	1
	迫	0	0	0
		27	11	34

（全岡山）		S	得	反
GK	倉槇	0	0	0
	三宅	0	0	1
	小郷	2	0	1
	渡辺	2	1	8
	宮西	8	3	4
	峰山	9	1	3
	名合	0	0	4
	三宅	0	0	1
	大成	2	0	3
		23	5	25

2 7MT 2

準決勝で日体大を倒した全岡山は、前半大洋と互角に渡りあった。後半は大洋のすぐれたパスプレーの前に屈した。大洋は全員が攻撃にスピードがあり、チーム力最好調と感じられた。

▽三位決定戦

大阪ク 11（6―4、5―2）6 全岡山

▽決勝

大洋デパート 14（6―4、8―7）11 愛知紡

▽戦評　前半15分まで愛知紡は4―2と順調にリードした。しかしそのあとばったり得点がなくなり、お得意の縦の切り込みに鋭さ

(大洋)	S	得	反
GK徳富	0	0	0
立山	2	1	4
徳永	7	3	6
山口	0	0	0
千原	1	1	4
西村	6	2	1
久連松	8	5	0
桜木	2	2	5
	26	14	20

(愛知)	S	得	反
GK篠崎	0	0	0
山崎	0	0	6
宮本	2	0	5
塚原	4	2	5
山田	11	3	4
青木	7	3	3
沢田	7	3	2
	31	11	25

(3　7MT　4)

がなかった。ここを大洋は徳永、西村、久連松がポストプレーから好シュートを放って得点、あっという間に逆転してしまった。

後半にはいって大洋がすっかり自分のペースで試合を進めた。愛知紡はすべてに不調。8分には11―4と大差をつけられてしまった。このあと愛知紡は反撃して、山田の3ゲットなどあった。大洋は遂に宿望の全国タイトルを獲得し、愛知紡の38連勝にストップをかけた。

歓びの大洋デパートチーム

女子の決勝をみて

愛知紡には5人、大洋には1人の世界選手権出場者、しかも愛知紡は過去において大洋を三度破っている。だから愛知紡有利という見方が多かった。愛知紡にとって不安なことは、エース磯部の退部、若手の早川の退社で戦力が落ちたことである。これをどうカバーするか…ここにポイントがあった。スローオフと同時に沢田が独走して、アッという間に得点した。世界選手権で鍛えたプレーをみせてくれた。だが磯部のアナ埋めに起用した山田には少し荷が重すぎた。磯部ほどの技倆はない。青木を6番に上げ、山田―青木の二人で磯部のアナをカバーした。青木の進歩はいちじるしいものがあった。ヨーロッパ遠征前とはまるで違う。前半14分30秒、16分に大洋のフリースロー、これが前半のヤマ場。徳永はこの二度のフリースローを思い切ってロングシュート。ボールは手を上げた愛知デフェンスのわずかなスキを縫ってゴールインこれで4―4の同点。この2点は愛知にとってショッキングだった。デフェンスの動きが鈍くなった。18分大洋の桜木が右サイドからシュート、19分久連松の7メートルスローと完全に愛知を押えた。女子選手の心理は実に微妙である。ちょっとしたことから大きくくずれ、逆に立ち直ることもある。この徳永のフリースロー2本もそうだが、愛知のシュートがゴールポストやバーに当たってはね返るかと思えば、大洋は逆にゴールインしてしまうなど運不運も大きくひびいた。愛知紡は不運というほかはない。大洋は〃打倒愛知紡〃をめざしてきた。当たってくだけろのファイトで愛知にぶつかった。西村―徳永―久連松の速攻、それにGKの徳富（旧姓西村美代子）の好守は光った。愛知紡を「女子の王座」から引きずりおろした。大洋の勝利はツキというよりも努力の賜といっていい。高校の菊池農蚕は三年計画の三年目に念願の優勝を飾った。夏のインターハイ決勝で静岡城北に9―7で敗れたが、これにも屈せず国体で初優勝した。これも大洋デパートの活躍に刺激され、練習に次ぐ練習によるもの。「ハンドボール王国熊本」の名にふさわしい試合だった。（鴛尾）

神代、桜台にまた苦杯

高校男子

▽一回戦

和歌山商（和歌山）9（5－4、4－1）5 小倉工（福岡）

浦和市高（埼玉）16（7－4、9－5）9 室蘭商（北海道）

盛岡第一（岩手）14（6－4、8－5）9 新居浜工（愛媛）

徳山（山口）20（10－3、10－2）5 北佐久農（長野）

▽準々決勝

桜台（愛知）15（8－5、7－3）8 和歌山商

天城（岡山）15（3－3、12－4）7 浦和市立

神代（東京）13（7－5、6－7）12 盛岡第一

徳山 19（7－9、8－6、1－1、3－1）17 寝屋川（大阪）

▽準決勝

桜台 10（5－2、5－5）7 天城

(天城)		(桜台)
細川	GK	山村
阿部 佐原	FB	神谷 林
姫路 藤本 合田(教)	HB	鳥居 河村 小林(克)
熊本 平田 吉和 永井 合田(光)	FW	近藤 小川 山田 竹内 小林(樹) 加古
26	シュート	32
21	反則	26
1	MT	14 0

（評）両チームとも立ち上がりから堅くなってミスが多かった。桜台は13分近藤のシュートで2―2と追いついてからようやく本来の速攻が出た。18分山田、19分小川のシュートでリードし前半を終わった。後半は竹内に打たせたのが成功した。天城は桜台の厚いデフェンスを破れず、前半7分から後半7分まで約30分無得点だった。桜台の勝利は順当だったが、天城GKの細川の好守はすばらしかった。

神代 15（7－7、8－5）12 徳山

(徳山)		(神代)
竹下	GK	尾形
明石	FB	茂呂
山田	FB	駒井
藤井	HB	楊原
福田	HB	橋本
渡辺	HB	平田
野村	FW	大宅
椎木	FW	百武
片山	FW	浜元
近森	FW	青木
宮崎	FW	関根
(伊崎)		(汐見)
25	シュート	23
12	反則	31
6	M T	7 14

(評) 最初から速攻の応しゅうでおもしろかった。神代はエース関根を中心に百武、大宅らが走り回り、徳山も近森に打たせるなど激しいゲームを展開した。前半はまったく互角。後半8分徳山は近森のシュートで10—9とリードしたが、11分、13分に手痛い反則から14メートルスローで逆転された。神代は15分30秒、16分に関根が得点して13—10とリードを保ち、徳山の追撃をみごと振り切った。徳山の近森のプレーはよかった。

▽三位決定戦

徳山 18（7—4、11—6）10 天城

▽決勝

桜台 18（5—4、13—10）14 神代

(評) この顔合わせは夏のインターハイ決勝に次いで二度目である。このときは14—10で桜台が勝っている。予想どおり試合は1点を争う好ゲームとなった。桜台は前日まで近藤、小川が不調だったので"神代有利"の声さえあったほどである。神代は夏のインターハイでは関根のワンマンチームだったが、この試合は関根—青木—百武のトリオがよかった。後半15分まで11—11、16分に小川、18分に近藤がシュートして13—11としてから桜台が優位に立った。神代も19分関根がフリースローを決めて13—12と迫まったが、桜台にすぐ引き離された。14—12、14—13、15—13、15—14と接戦を繰り返したが、桜台のFWはますます地力をみせた。24分小川、25分山田のゲットで17—14と3点差をつけ、神代の反撃を断ち切った。とにかく速攻の連続で、見ごたえがあった。桜台の近藤、小川、神代の関根、百武のプレーは印象的だった。

(神代)	S	得	反		(桜台)	S	得	反
尾形	0	0	0	GK	山村	0	0	1
駒井	0	0	2	FB	神谷	0	0	1
茂呂	0	0	1	FB	林	0	0	1
楊原	0	0	0	HB	鳥居	0	0	4
橋本	0	0	2	HB	河村	0	0	11
平田	0	0	1	HB	小林(克)	0	0	0
大宅	2	0	0	FW	近藤	13	6	0
百武	10	6	0	FW	小川	18	9	0
浜元	1	0	0	FW	山田	3	2	0
関根	13	5	2	FW	竹内	3	1	1
青木	5	3	0	FW	小林(樹)	2	0	1
	31	14	8	3 14MT 1		39	18	20

菊地農蚕が初優勝

高校女子

▽一回戦

徳山（山口）15（7—1、8—2）3 清水丘（北海道）

県尼崎（兵庫）10（5—1、5—2）3 高知西（高知）

▽準々決勝

稲沢（愛知）8（4—4、4—2）6 徳山

水海道二（茨城）13（7—2、6—3）5 富山女（富山）

菊池農蚕（熊本）12（7—2、5—6）8 県尼崎

井原（岡山）8（2—1、6—5）6 秋田和洋女（秋田）

▽準決勝

稲沢 7（5—2、2—4）6 水海道二

インターハイは5点差で稲沢が勝っている。この試合も稲沢のペースで進んだ。しかし後半水海道もよくがんばり、あと一歩のところで追い上げた闘志はりっぱ。稲沢は後半むりな攻撃を見せたのが苦戦の原因。

(水海道)	S	得	反	(稲沢)	S	得	反
GK 鈴木昌	0	0	0	GK 柴田	0	0	0
野村	1	0	1	竹市	3	2	5
鈴木き	6	1	6	林	5	1	5
立川	1	1	4	笹野	5	3	2
後の上	9	2	2	永井	12	1	1
横倉	3	0	6	川口	2	0	12
木村	9	2	5	内藤	1	0	2
大堀	1	0	0	飯田	0	0	4
	30	6	24		28	7	31
	3	7MT	1				

菊池農蚕 10（5—2、5—4）6 井原

(菊池)	S	得	反	(井原)	S	得	反
GK 山口	0	0	0	GK 早川	0	0	0
高山	11	5	4	池田	6	2	1
八並	1	1	2	村上	1	0	2
中村千	6	3	5	千々木	12	2	2
中尾	1	0	3	岡本	6	0	3
中村美	2	0	5	渡辺英	0	0	0
西口	2	1	1	渡辺美	1	1	0
				佐藤	1	0	3
				細羽	1	1	3
	23	10	20		28	6	14
	0	7MT	2				

地元の声援を受けた井原の試合ぶりは気力にあふれたものだったが、攻守に菊池に一日の長があった。

▽三位決定戦

井原 9（4—5、5—4）9 水海道二

引き分け

▽決勝

菊池農蚕 13（7—6、6—6）12 稲沢

稲沢は前半風上に立ちながら、その攻撃は消極的で試合のペースを菊池に握られた。菊池は高山がよく全員をリードして好配球し、中尾、中村らがうまく得点に結びつけた。チーム力はほとんど互角。後半は逆に稲沢のチームプレーが菊池を圧した。菊池は前半の1点差のリードで最後まで余裕を持ち、逃げ切りに成功した。菊池は初優勝、全国優勝三年計画の三年目で全国高校で準優勝、国体では見事宿望を果した。（杉山）

(菊池)	S	得	反	(稲沢)	S	得	反
GK 山口	0	0	0	GK 柴田	0	0	0
高山	11	5	1	竹市	6	3	3
八並	2	0	0	林	6	2	0
中村千	2	1	3	笹野	3	2	3
中尾	6	1	4	永井	10	4	2
中村美	3	2	2	川口	3	1	7
西口	6	4	1	内藤	4	0	3
	30	13	11	計	32	12	18
	3	7MT	3				

▽前号の訂正 26頁早慶定期戦過去の成績のうち第8回早16—10慶は第9回の誤り、第8回は早17—12慶、また第6回慶10—5早を追加。

女子実業団いまや狭き門

—楽書帖— 第12回

鷲尾武治

▽…私はいま大阪に在住しているので、公体を利用して倉敷の国体会場へ行ってみた。会場に着いたとき、女子高校の優勝が決まった瞬間だった。菊地農蚕監督の荒木君や大洋デパートの井君が小おどりしてよろこんでいた。三年計画の三年目にインターハイ2位、国体優勝を勝ちとったのだから…。このあとの一般女子決勝で熊本大洋デパートが王者愛知紡を破って初優勝、ここに「熊本王国」を築いた。決勝がいずれも熊本対愛知、それだけ熊本のよろこびは大したものだった。大洋の井君は「これでやっと肩の荷がおりた。しかしこれからは追われる身だから、ゆだんはできません。それにしても愛知紡と4回対戦して初めて勝ったのですから、その方が優勝よりもうれしい」、キャップテンの西村さんも「徳永さんのフリースロー2本が決まったときは、勝てると思った」と自身満々だった。

▽…愛知紡は5人、大洋は1人の世界選手権出場者がいる。ところが東京の大崎電気に5人、レナウン工業に3人いるのに、この両チームは関東予選に敗れて出場できなかった。大洋の井君は「大崎電気にば5人もいるのに、なぜ負けたんだろう。大崎電気が出て来ないのが残念です」と話していた。大崎電気の奮起をのぞむ。

▽…愛知紡のエース磯部君がヨーロッパから帰国すると、すぐハンドボールをやめた。理由は結婚するとか。全日本総合にも国体にも顔を出さなかった。私は決して彼女を責めるわけではないが、ことし一年ぐらいはハンドボーをやってほしかった。家庭の事情かもしれないが、彼女がヨーロッパで磨き上げたあのプレーを、ご披露したら女子高校生のために大いに役立ったと思う。女子レフェリーの登場を待ちこがれている矢先に、彼女を失ったのは痛い。

▽…38年4月に東京のジューキミシンが女子チームをつくる。いまはその準備に追われている。芝浦工大出の近藤金博君が同チームの監督に予定され、倉敷の会場に姿を現わした。もちろんスカウト(?)である。大崎電気の渡辺社長も女子チーム育成のために汗水たらして選手を捜し回っている。渡辺社長の手元にはいま二十人近い選手のリストがある。大半はジューキミシンに回し、残りを大崎電気、レナウン工業に入れるとか。狙われているのは稲沢、静岡城北北海道第二、栃木女、沼津商、広島山陽など。このほか自鷹、他鷹があり、女子実業団チームの世界もなかなかにぎやか。いまや〃狭き門〃となりつつある。

時評

学連運営は学生の手で

▽…某大学の先輩は試合に負けたというので、選手にビンタをとばした。それも試合終了後、相手チームの選手が見ている前で…。あげくの果ては丸坊主になった。先輩の気持は、わからぬこともないが、暴力追放がさけばれているときだけにいただけない。暴力はやめた方がいい。これでは選手が委縮して伸び伸びとプレーできない。

▽…関西学生連盟の運営は、どうもすっきりしていないようだ。というのは秋のリーグ戦を見て、公認審判員の資格のない人が堂々と笛を吹いたり。審判長がリーグ戦に一度も来ない。それればかりではない。試合開始5分前にあわててラインを引いたり、ネットを張ったりしている。リーグ戦の前に監督会議、審判打ち合わせ、キャップテン会議も開かない。これでリーグが完全に運営されるとは思えない(某チーム監督の話)。インカレに関西学連が不参加を表明してから、連盟内がゴタゴタしているようだ。学連副委員長の林君(桃山大)は連盟の運営に不満を持ち、連盟の業務から手を引いたとか。学連は現役(学生)で運営されているはずなのに…。学生同士のイガミ合いだけではないようだ。先輩連中が学連の運営に口を出しているからだ。学連の学生役員はもっと勇気を出して運営してほしいものだ。

好評国体も会場設営では落第

▽…レベルが上った。話題も多かった。「総じてなかなか好内容だったじゃないか」と評判の第17回国体。時評子がからい点をつけなければならないのは、プレイヤース・ベンチ(選手席)にまるっきり配慮がないことだ。

大体、会場設営なんていうものはルールを守るに便利でなくちゃあいけない。それを倉敷の各会場の選手席ときたら、エンドラインの近くに設けてある。

現行のルールでは、「選手の交代は、入場者はセンターラインから、退場者は随意の場所から……」となっている。倉敷の会場の設営では、入場選手のプレー参加になんと不便なことか。コーチが作戦を授けるにも不便だし、交代選手が自軍ベンチから遠く(?)離れた本部席前のグラウンドに座っている図はなんともわびしくていただけないセンターラインにできるだけ近くに、選手席を造るのがプレイヤーに対する主管者の最大の配慮である。

▽…ハンドボールに限らず、日本の競技会場は大会役員席なるものが大きな顔をしすぎている。倉敷の会場もそうだった。

時評子はためしに昨年の世界選手権に同行したA氏に「向こうはどうですか」と聞いてみた。A氏の答えは「中央にスコアラー席、待機審判席の合計五、六席と机があってその左右はすぐ選手席。大会役員席なんていうのは反対側か、ときには一般スタンドの中だ」ということだった。

全日本学生王座決定戦

芝浦工大、5度目の優勝

19—8 連続出場の同大もあえなし

第15回全日本学生ハンドボール王座決定戦、芝浦工大(東日本代表)—同志社大(西日本代表)の試合は11月23日午後2時から西宮第一球技場で行なわれた。試合は芝浦工大のスローオフで開始されたが、芝浦工大はスタートから速攻を見せて同志社大を圧倒、ダブルスコアの19—8で昨年に次いで2連勝(5度目の優勝)した。ことしから大会回数を改め、31年までの東西学生王座を通算して15回大会とした。

▽王座決定戦

芝浦工大 19(10—4、9—4)8 **同志社大**

▽スローオフ　芝浦工大

▽レフェリー　村田(日体大出)

反	得	S	(芝浦)		(同大)	S	得	反
0	0	0	谷	GK	奥本	0	0	0
5	0	0	川島	FB	東尾	0	0	4
9	0	0	久保	FB	斎藤	0	0	5
6	0	0	中	HB	川井	0	0	1
3	0	0	斎藤	HB	矢柴	0	0	2
3	2	2	野村	HB	若宮	0	0	5
0	3	3	福島	FW	鳥井	3	1	1
1	2	3	金山	FW	西川	5	2	2
0	4	9	北村	FW	大曾根	16	4	0
3	3	4	住広	FW	影山	1	0	2
2	5	8	越智	FW	宮野	3	1	1
22	19	29	(6)	14MT	(4)	28	8	23

〔評〕芝浦工大のスローオフで開始。同大は風上に陣をとり、試合を有利に運ぼうとしたが、芝浦工大の速攻の前にもろくもくずれた。前半2分芝浦工大は幸運にも同大の反則で14メートル・スローを得たが、シューターの越智が堅くなりすぎて失敗した。4分金山がうまく中央を割ってシュートし、先制の1点をあげた。同大は芝浦ゴールまでボールを持って行くが、芝浦工大バックスの久保、野村を中心とした厚いデフェンスにどうすることもできず、逆に芝浦ボールとなる始末。6分住広が左ポストギリギリに、7分にも住広が右コーナーいっぱいに決めて3—0とリードした。同大はこの直後6人攻撃で芝浦ゴールに迫ったが、いたずらにパスするだけでものにならず。ボールキープが長すぎ、ホイッスルが鳴って芝浦ボールとなった。レフェリーのこの処置はよかった。シュートするチャンスがあってもシュートせず、時間をかせぎ、芝浦をじらす作戦だ。同大は8分までシュートはたった1本というありさまである。芝浦工大は少しも休まず、FWの速攻、バックスの堅守と一方的な試合となった。9分北村が左コーナーへうまく流して4—0とリードした。同大は10分大曾根が風をうまく利して、右サイドから左コーナーへロングを流して1点を返し、やっと4—1となった。芝浦は11分、14分に越智が14メートルスローを決めて6—1と大きくリード。同大も大曾根—宮野のコンビでよく走り回り、15分、17分に西川がゲットして6—3とした。芝浦は18分北村のリターン・パスを越智が決めてから芝浦ペースとなり、前半は10—4と6点差がついた。後半になっても芝浦は少しも疲れをみせず、金山—北村—住広—越智が同大バックスを大きくゆさぶり、13分までに15—9と一方的なものにした。同大は芝浦のなすがまま、8分から19分までの11分間はノーゴール。興味は芝浦が何点とるかだけ。結局はダブルスコアになったが、後半はつまらないゲーム。この試合で前半同大の若宮、後半芝浦の金山が5分間退場を命じられた。

この試合で感じたことは、ハンドボールは速攻でなければ試合にならないことである。芝浦が終始速攻をみせていたのに、同大は遅攻戦法をとった。これでは少しもおもしろくない、同大にしてみれば遅攻以外に手はなかったのだろう。それにしても消極的だ。後半は速攻、遅攻をミックスさせたが、逆転するに至らなかった。

芝浦工大圧倒の六連勝
全日本学生王座東日本予選

第六回東日本学生ハンドボール大会(全日本学生王座東日本代表決定戦)は、11月11日、早大上石神井グランドに関東、東北北海道、東海三学連の秋の優勝校が集まり、リーグ戦の結果、芝浦工大(関東)が優勝、六年連続東日本代表となった。

芝浦工大(関東) 30(14—2、16—1)3 東北大(東北)

芝浦工大 22(10—3、12—4)7 中京大(東海)

中京大 14(7—9、7—4)13 東北大

(順位) ①芝浦工大2勝 ②中京大1勝1敗 ③東北大2敗

西日本は同志社大
善戦の広島大を降す

全日本学生王座西日本代表決定シリーズの第二戦(決勝)は、11月15日雨の広島市の広島商大グランドで、同志社大(関西)と広島商大(中、四国)の間で行はれ、広島商大もよく食下ったが、同大

は雨中戦の攻防に一日の長を見せて快勝。二年連続二回目の西日本代表に決まった。

同　大（関西）14（6—3、8—6）9 広島商大（中・四国）

▽**第七回東北・北海道学生選手権兼全日本学生王座東北、北海道代表決定戦**（10月27・28日、宮城野原県営サッカー場）

Aゾーン

東北大 18（6—4、12—6）10 福島大
東北大 13（5—6、8—1）7 山形大
山形大 13（5—5、8—2）7 福島大

Bゾーン

東北学院 10（4—4、6—3）7 北大
東北学院 14（11—1、3—6）7 岩手大
北大 7（2—3、5—4）7 岩手大
引きわけ

決勝トーナメント

▽準決勝

東北大 16（7—4、9—1）5 北大
東北学院 15（9—3、6—7）10 山形大

▽三位決定

山形大 8（4—3、4—4）7 北大

▽決勝

東北大 14（6—5、8—6）11 東北学院

（学院）		（東北大）
斎藤	GK	添田
高橋克	FB	北村
宮崎	FB	久保田
梅村	HB	大友
鎌滝	HB	高橋
佐々木	HB	落合
村上	FW	阿部
小林	FW	竜山
高橋長	FW	藤田
菅原	FW	山村
片山	FW	長田
30	S	33
20	反則	38
3	14MT	5

学生王座成績一覧表

回	年・会場	優勝	スコア	準優勝
第1回	（23年西宮）	文理大	5—4	関学
第2回	（24年駒沢）	関学	5—4	日体大
第3回	（25年西宮）	関学	5—3	早大
第4回	（26年駒沢）	関学	8—7	立大
第5回	（27年西宮）	関学	9—7	日体大
第6回	（28年神宮）	関学	13—11	早大
第7回	（29年西宮）	関学	9—6	日体大
第8回	（30年神宮）	日体大	10—9	関学
第9回	（31年西宮）	芝工大	9—8	関学
第10回	（32年後楽園）	芝工大	21—11	関学
第11回	（33年西宮）	関学	12—10	芝工大
第12回	（34年国立競技場）	芝工大	24—17	関学
第13回	（35年西宮）	関学	12—11	芝工大
第14回	（36年東京）	芝工大	18—13	同大
第15回	（37年西宮）	芝工大	19—8	同大

全日本学生東西対抗

東軍FW、速攻の勝利

三年ぶり　西軍をダブルスコア

第十二回全日本学生選抜東西対抗戦は、9月15日午後4時から名古屋の鶴舞球技場で行なわれた。東軍がすぐれた攻撃力で西軍を圧倒、三年ぶりに勝った。対戦成績は6勝6敗のタイとなった（観衆千三百）

東　軍 22（11—4、11—7）11 西　軍

○…試験で練習の開始が遅れたうえ、会場の都合で試合日が一日繰り上がった。西軍は「コンビの調整が不じゅうぶん」（渡辺監督の話＝関学出）だった。

一方の東軍は合宿まで行ない一日の繰り上げも響かなかった。このコンディションの差が開始直後からスコアになって表われた。1分小野の14米スローの先取点で始まった東軍の攻撃は、10分には6対1と西軍を引き離した。

西軍はこの東軍の出足に引きずられて速い攻撃をみせたが不発。このあたり、得意のスローペースを見せて対抗してもよかったはずだ。

そのうえ、HB陣がいかにも弱く、かなめのLH村田が攻撃に参加したため戻りがおくれた。これが東軍の速攻を許す結果となった。

○…しかし東軍の攻撃はあざやかだった。特に羽上田がパッサーとしての好技をいかんなく発揮した。小野、北山、北村らもよく動いた。この好配球を得点にことごとく結びつけていた。西軍バックスが好コンディションであっても、この日の東軍FWの速攻は防ぎ切れなかったのではあるまいか。

西軍は後半浅野、市原がタイミングのよいミドル、ロングシュートを決めて、僅かに反撃の気勢を見せた。東軍FWの調子は後半に入っても落ちず、意外の大差で試合終了となった。

○…若手をそろえた西軍が、ベストコンディションでなかったのは気の毒。個人技をうまくチームプレーに結びつけた田中監督（中大出）の作戦の成功もあって、東軍の文句のない勝ちっぷりだった。

（杉山茂）

主審＝宇津野（日体大出）

【東　軍】		【西　軍】
谷（芝工大）	GK	奥本（同大）
蓮井（日体大）	FB	中井（桃山大）
久保（芝工大）	FB	石崎（京大）
宮本（法大）	HB	矢柴（同大）
田上（日体大）	HB	藪田（関学大）
森川（中京大）	HB	村田（関学大）
小野（立大）	FW	森末（関学大）
北山（日体大）	FW	荘林（神大）
大脇（中大）	FW	宮野（同大）
羽上田（中京大）	FW	浅野（京大）
北村（芝工大）	FW	藤井（関学大）
38	ST	36
33	反則	26
5	14MT	4

【交代】東軍＝FW吉村（法大）諏訪（慶大）高橋（東北学院大）HB与縄（立大）GK島崎（日体大）西軍＝FW大高（甲南大）市原（広島商大）HB川崎（神大）

▽オープン中学選抜試合

名古屋選抜 12（4—6、8—4）10 尾張東部選抜

関東学生秋季リーグ

芝浦工大、十一度目の優勝

日体大から王座奪いかえす

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦は、駒沢ハンドボール競技場がオリンピック工事の為今季リーグから永年の駒沢を離れ、一部リーグは十月十五日から上石神井の早稲田大学グランド二部及女子リーグは十月七日から東京大学駒沢グランドで開催され本年の十一人制総決算とも云うべきこのリーグも日を追う毎に熱戦を展開、各校実力の接近もあって一時順位が混頓とする日程となり内容豊かなリーグ戦であった。その結果一部は春季優勝の日体大を破って着実な試合ぶりを示した芝浦工大が十一回目の優勝、二部では教育大が優勝し、十一月四日その幕を閉じた明春から理科大学が新加盟する為三部制を明年から実施するその予選も今季リーグは兼ねられた。

▽第一日

日体大 19（10－6、9－3）9 明大

芝工大 20（13－3、7－4）7 慶応大

早稲田 12（7－6、5－3）9 法政大

立教大 18（10－4、8－6）10 中央大

▽第二日

立教大 11（5－5、6－5）10 早大

日体大 13（7－4、6－8）12 慶応大

中央大 11（4－4、7－5）9 法政大

芝工大 19（10－2、9－8）10 明治大

▽第三日

慶応大 13（9－5、4－6）11 法政大

明治大 18（10－8、8－9）17 立教大

早大 12（3－4、3－2、延長 2－1、4－3）10 日体大

芝工大 13（5－4、8－2）6 中央大

▽第四日

立教大 18（11－3、7－12）15 慶応大

芝工大 13（3－1、10－6）7 早大

日体大 20（10－3、10－3）6 中央大

法政大 17（2－3、10－12、延長 0－0、2－1）16 明治大

▽第五日

早大 16（9－2、7－7）9 明治大

芝工大 18（9－5、9－5）10 法政大

慶応大 16（7－8、9－4）12 中央大

日体大 19（9－6、10－9）15 立教大

▽第六日

中央大 17（8－4、9－11）15 明治大

日体大 18（8－2、10－7）9 法政大

芝工大 23（11－3、12－4）7 立教大

慶応大 8（4－4、4－2）6 早稲田大

▽第七日

明治大 15（6－7、4－3、延長 3－1、2－1）12 慶応大

早稲田大 12（7－4、5－5）9 中央大

立教大 23（8－9、9－8、延長 1－1、5－2）20 法政大

芝工大 14（8－6、6－6）12 日体大

女子

▽一日第

日体大 19（11－1、8－3）4 日女体大

▽第二日

日体大 13（8－1、5－4）5 日女体大

▽第三日

日体大 12（3－1、9－6）7 日女体大

二部

▽第一日

教育大 12（7－4、5－5）9 東大

学芸大 15（7－3、8－5）8 日大

順天大 17（10－7、7－6）13 千工大

茨城大 24（14－4、10－6）10 武工大

▽第二日

千工大 23（11－6、12－4）10 武工大

日大 15（6－8、9－6）14 茨城大

学芸大 14（8－7、6－5）12 順天大

東大 12（9－5、3－6）11 防大

▽第三日

日大 11（6－7、5－1）8 防大

茨城大 12（8－2、4－7）9 千工大

東大 9（4－4、5－4）8 順天大

教育大 30（18－1、12－0）1 武工大

▽第四日

学芸大 18（6－2、12－6）8 千工大

教育大 27（13－5、14－4）9 日大

順天大 23（14－7、9－7）14 茨城大

防大 25（11－2、14－5）7 武工大

▽第五日

学芸大 13（9－6、4－5）11 茨城大

教育大 19（9－4、10－4）8 防大

千工大 18（11－10、7－6）16 日大

東大 18（11－6、7－4）10 武工大

▽第六日

日大 13（7－6、6－5）11 武工大

東大 11（7－6、4－4）10 学芸大

教育大 20（10－4、10－3）7 千工大

防大 17（8－7、9－4）11 順天大

▽第七日

防大 15（10－3、5－2）5 千工大

茨城大 6（4－2、2－3）5 東大

学芸大 13（8－1、5－0）1 武工大

教育大（不戦勝）順天大

豆ニュース

▽秋の関東学生リーグ六日目、慶大は早大を8－6で破ったが慶大が早大に勝ったのは昭和三十三年秋のリーグ戦以来四年ぶり。

この間、慶大は早大に11連敗（リーグ戦六、定期戦四、室内定期戦一）している。

▽秋の関西学生リーグで関学が六位に落ちた。その成績二勝五敗は創部以来の最低で、勝率五割を割ったのも、Bクラスに落ちたのも、甲南大、桃山学院大に敗れたのもすべて始めて。

一位となった同大は一部八校になっての全勝優勝は始めて。

関東学生秋季成績表

△一　部

	芝	日	早	立	慶	明	中	法	勝	敗	勝率	得点	失点
芝工大	＼	○	○	○	○	○	○	○	7	0	1.000	120	59
日体大	×	＼	×	○	○	○	○	○	5	2	0.714	111	77
早稲田大	×	○	＼	×	×	○	○	○	4	3	0.571	75	69
立教大	×	×	○	＼	○	×	○	○	4	3	0.571	109	115
慶応大	×	×	○	×	＼	×	○	○	3	4	0.428	83	95
明治大	×	×	×	○	○	＼	×	×	2	5	0.285	92	117
中央大	×	×	×	×	×	○	＼	○	2	5	0.285	71	103
法政大	×	×	×	×	×	○	×	＼	1	6	0.142	85	111

△二　部

	教	東	防	学	順	茨	日	千	武	勝	敗	勝率	得点	失点
教育大	＼	○	○	○	○	○	○	○	○	8	0	1.000	145	59
東京大	×	＼	○	○	○	×	○	○	○	6	2	0.750	84	70
防衛大	×	×	＼	○	○	○	×	○	○	5	3	0.625	114	81
学芸大	×	×	×	＼	○	○	○	○	○	5	3	0.625	97	83
順天大	×	×	×	×	＼	○	○	○	○	4	4	0.500	104	86
茨城大	×	○	×	×	×	＼	×	○	○	3	5	0.375	108	110
日本大	×	×	○	×	×	○	＼	×	○	3	5	0.375	86	119
千工大	×	×	×	×	×	×	○	＼	○	2	6	0.250	91	117
武工大	×	×	×	×	×	×	×	×	＼	0	8	0.000	60	164

▽第八日

教育大 18（8-10・10-5）15 茨城大

順天大 18（9-5・9-5）10 武工大

防　大 13（6-3・7-1）4 学芸大

東　大 11（4-5・7-0）5 日　大

▽第九日

東　大 9（4-4・5-4）8 千工大

▽一部二部入替戦

防　大 17（6-7・11-5）12 茨城大

順天大 15（8-3・7-6）9 日　大

教育大 19（7-7・12-3）10 学芸大

法政大 20（9-8・11-7）15 教育大

▽二部、三部決定戦

茨城大 18（8-6・10-7）13 日本大

関西学生秋季リーグ戦

同志社大、5度目の優勝

関学、関大Bクラスに転落

関西学生秋季リーグは10月20日から11月11日まで西宮球技場（一部）、大阪学芸大池田分校（二部）で行なわれた。優勝は6戦6勝の同志社大―京大の間で争われたが、同大は宮野の活躍で京大を破り、昨年秋に次いで五度目の優勝を飾った。京大は惜しくも二位。名門の関学、関大がB級に落ちる不振で、リーグ戦の興味は半減した。

▽第一日（10月20日）

桃山大 19（9-8・10-6）14 甲南大

関　学 22（11-5・11-5）10 立命大

同　大 15（9-6・6-3）9 関　大

▽第二日（10月21日）

京　大 21（10-9・11-6）15 神　大

桃山大 20（9-3・11-3）6 立命大

京　大 17（9-6・8-8）14 関　大

甲南大 17（10-6・7-10）16 関　学

同　大 24（11-4・13-7）11 神　大

▽第三日（10月27日）

桃山大 23（12-11・11-7）18 神　大

同　大 26（14-4・12-5）9 立命大

関　学 18（10-7・8-8）15 関　大

京　大 23（10-7・13-8）15 甲南大

▽第四日（10月28日）

京　大 18（9-9・9-7）16 立命大

神　大 16（8-4・8-10）14 関　学

同　大 25（12-5・13-4）9 甲南大

関　大 12（8-5・4-6）11 桃山大

▽第五日（11月3日）

甲南大 9（5-2・4-5）7 関　大

同　大 13（3-1・1-2・3-5・6-4）12 桃山大

神　大 16（2-2・2-2・5-6・7-6）16 立命大

引き分け

京　大 14（1-3・4-1・5-4・4-5）13 関　学

▽第六日（11月4日）

神　大 14（6-5・8-7）12 甲南大

京　大 15（7-8・8-6）14 桃山大

関　大 12（5-5・7-6）11 立命大

同　大 16（7-5・9-1）6 関　学

年次別優勝チーム

	春	秋
23年	関　学	関　学
24	〃	〃
25	〃	〃
26	〃	〃
27	同志社	〃
28	関　学	〃
29	同志社	〃
30	関　学	〃
31	同志社	〃
32	関　学	〃
33	〃	〃
34	〃	〃
35	〃	〃
36	関　大	同志社
37	関　学	〃

▽最終日（11月10日）

甲南大 18（8―6 10―8）14 立命大

神大 16（6―6 10―8）14 関大

同大 15（7―7 8―6）13 京大

反	得	S	（同大）		（京大）	S	得	反
0	0	0	奥本	GK	川原	0	0	0
8	0	0	東尾	FB	山城	0	0	4
4	0	0	斎藤	FB	石崎	1	0	7
11	1	1	川井	HB	生本	0	0	3
4	1	1	矢柴	HB	小松	1	1	7
12	0	0	若宮	HB	渡辺	0	0	1
2	2	5	鳥井	FW	井口	1	1	0
0	0	0	西川	FW	武内	3	0	0
0	4	11	大曾根	FW	浅野	28	10	0
2	0	0	影山	FW	西村	1	1	0
2	7	7	宮野	FW	雨森	0	0	0
					（桑山）	0	0	3
45	15	25	8	14MT	3	35	13	25

（評）浅野―大曾根の打ち合いで始まったが、前半8分同大は大曾根が14メートルスローを決めて3―2とリードした。これを契機に1点を争う好ゲームを展開し、京大は28分、29分に浅野のシュートで7―7と同点。後半もつねに同大がリードをつづけ、宮野の好シュートで京大をふり切った。大曾根は14メートルスロー5本のうち4本を失敗して同大苦戦の因をつくったが、宮野がよくカバーして後半1人で5点をあげた。これが同大の勝因。宮野はよく走り、右サイドからシュートして得点をあげた。浅野の活躍も見のがせない。

桃山大 20（11―9 9―8）17 関学

関西学生秋季リーグ勝敗

順位		同大	京大	桃山	神大	甲南	関学	関大	立命	試合数	勝数	負数	引分
①	同大	×	○	○	○	○	○	○	○	7	0	0	0
②	京大	●	×	○	○	○	○	○	○	7	6	1	0
③	桃山	●	●	×	○	○	○	●	○	7	4	3	0
④	神大	●	●	●	×	○	○	○	△	7	3	3	1
⑤	甲南	●	●	●	●	×	○	○	○	7	3	4	0
⑥	関学	●	●	●	●	●	×	○	○	7	2	5	0
⑥	関大	●	●	○	●	●	●	×	○	7	2	5	0
⑧	立命	●	●	●	△	●	●	●	×	7	0	6	1

2部順位 ①大阪経大6勝②大阪府大5勝1敗③大阪学大4勝2敗④大阪大大阪工大2勝4敗⑥大阪歯大，大阪市大1勝5敗

慶大、明大に連勝

第16回慶明定期戦は11月11日、横浜市の慶大日吉グランドで行はれ、慶大が前半、鋭い攻撃で明大を圧倒、リーグ戦の雪じょくを遂げ昨年に続き制勝、対戦成績を八勝八敗のタイにした。

慶大 22（14―7 8―10）17 明大

関大は中京大破る

第2回関大中京大定期戦は11月17日、関大グランドで行はれ、前半優位に立った関大が、後半、中京大の反撃をおさえて勝った。対戦成績は関大の1勝1引分

関大 16（8―4 8―9）13 中京大

中京大の好調続く

東海学生秋季リーグ戦

東海学生秋季リーグ戦は10月27、28日の両日、静岡大学グラウンドに一部五校、二部五校（南山大初参加）が参加して行なわれた。

▽一部

中京大 19（8―3 11―2）5 名工大

岐阜大 不戦勝 愛知学芸大

中京大 25（10―4 15―1）5 名大

名工大 不戦勝 愛知学芸大

岐阜大 19（10―7 9―7）14 名大

名大 不戦勝 愛知学芸大

岐阜大 18（10―8 8―3）11 名工大

中京大 不戦勝 愛知学芸大

名大 14（9―7 5―5）12 名工大

中京大 14（7―4 7―4）6 岐阜大

（順位）①中京大4戦4勝（昭和35年春いらい6連勝）②岐阜大3勝1敗③名大2勝2敗④名工大1勝3敗⑤愛知学芸大不戦敗

▽二部

静岡大 10―6 三重大

滋賀大 23―4 県立三重大

静岡大 9（抽選）9 南山大

三重大 17―10 県立三重大

滋賀大 10―6 南山大

高校選抜，韓国で5勝1分

（記録のみ既報） 全日本高校選抜チームは8月29日から10日間，韓国に遠征し，6試合5勝1引き分けの好成績で帰国。日本の高校界のレベルの高さを示すとともに，親善の目的をりっぱに果した。そして遠征団の稲石三二コーチ（桜台高，監督）から試合のもようや韓国高校界の実情をきいた。

▽第1戦（8月31日、7人制）

全日本 22（11―5 11―4）9 東星高

第一戦のため選手の動きは鈍く、得点の差こそあったが内容的に見るべきところがなかった。わずかに10点をたたき出した小川（桜台）、飯端（三国ヶ丘）のダイナミックなシュート、GK牧（中京商）の好守が目立った程度。全日本としてはもう少し高度な技術を見せなければいけなかった。

東星高は3年生が一人、あとは一、二年というチーム、体力的にもこのスコアは当然だった。（観衆約二千）

▽第2戦（9月1日、7人制）

全日本 17（5―6 12―2）8 麻浦高

前半、全日本がノーマークのチャンスをたびたび逸した。これに対し麻浦高のサイドから打つシュートが得点になるという運不運があって接戦となった。

しかし、後半にはいると麻浦高のスタミナが目に見えて落ち、全日本は飯端（三国丘）の豪快なシュートなどで着々加点し最後は大差となった。前半の麻浦高の善戦に観衆を興奮させ、盛り上がったふんい気の中での試合だった（観衆約二千）

▽第3戦（9月3日、11人制）

全日本 16（8―3 8―3）6 養正高

初の11人制。やはり勝手が違うか選手のプレーも間のびした感じ。加えて始めから点差がついてしまったため、緊張感のない試合に終始した。

養正高もゴール前の動きが鈍く、パスミスなどあって低調。全日本もいたずらにロングシュートばかり打ってよい試合ぶりとはいえなかった。（観衆約二千五百）

▽第4戦（9月4日、11人制）

滋賀大　14—5　静岡大
三重大　9—3　南山大
静岡大　20—3　県立三重大
三重大　4—1　滋賀大
南山大　9—2　県立三重大

（順位）①滋賀大、三重大、静大3勝1敗（得点率の高い滋賀大の優勝）④南山大1勝3敗⑤県立三重大4敗

▽一、二部入替戦

滋賀大（二部）　不戦勝　愛知学芸大（一部）

広島商大、攻守に安定

初の中四国学生リーグで優勝

秋の中四国学連の選手権大会は十月二十七、二十八日の両日広島商大グランドで四校が参加して始めてリーグ戦で行はれ、広島商大が安定した攻守で優勝した。

広島商大　25（11—6、14—4）10　広島大
山口大　16（9—5、7—1）6　岡山大
山口大　21（9—3、12—9）12　広島大
広島商大　20（12—1、8—2）3　岡山大
広島商大　21（11—7、10—8）15　山口大
広島大　11（3—4、8—4）8　岡山大

（順位）①広島商大3戦3勝　②山口大2勝1敗　③広島大1勝2敗　④岡山大3敗

話題のチーム⑫　神代高（東京）の巻

岡山国体の表彰式が終わったとき、佐野監督はこう話していた。「うちのチームがインターハイで2位になりそしていままた2位になったのは宮田校長の力によるところが大きいのです。試合があるとかならず応援に来てくれます。校長のこの熱意にこたえて選手ががんばったのです。それ以外にありません。」そういえば小倉のインターハイにもベンチに陣取っていたし、倉敷でも元気な姿が見られた。スポーツが好きとか。よくきいてみたら、学生時代（東大）はサッカーの選手だったそうだ。このチームができたのは31年4月、それも生徒のなかから「ハンドボール部をつくろう」と声が出たからだ。当時この高校は女子バレーボールが強く、東京のベスト4にはいるほどのチーム。そのなかで教大出の佐野君がハンドボール監督に迎えられた。そしてきびしい合宿が始まった。春は基礎練習、夏はチームプレーの練習、冬はロードワーク（一万メートル）と計画を立てた。この合宿の成果が名GK尾形（韓国に遠征）を生み、FWの関根、百武、バックスの楊原、平田、駒井を育てた。インターハイで中京商を破り、第2位になった直後、ハンドボール志願者が殺到して困ったというエピソードがある。中京商を倒したのがいちばん印象に残るといっている。このチームは二、三年前のチームにくらべてあまり期待していなかっただけに、インターハイ、国体で2位になったのはまさに驚異である。38年度の新チームは大宅、青木、浜元、関口が主力になる。各大学チームはスカウトを出して選手の争奪戦が激しい。卒業生のほとんどが進学する。

全日本　18（10—4、8—4）8　大倫高

前日のまずい試合に奮起した全日本は全員がよく投げ、よく走った。日本での合宿のときの調子がようやく出たようだ。

とくに木野（寝屋川）を中心としたポストプレーが再三にわたって成功したため、大倫高につけいるスキを与えなかった。

木野、矢島（小倉工）の好技が目立った。（観衆約一千）

▽第5戦（9月5日、11人制）

全日本　14（8—2、6—5）7　普成高

普成高はLBの178センチをはじめ170センチ台の選手を8人もそろえたが、全日本もよく走りスピード感のある好試合となった。普成高FWは恵れた体力、脚力を見せたため、全日本のバックスは反則してこの攻撃にストップをかける場面を強いられた。またGK牧、尾形（神代）が好技を見せたので失点を最小限に食い止めた。もし普成高のバックスが堅く、前半全日本の攻撃をある程度に押えていたら、もっとスリリングな試合となったろう。

この試合で全日本は渡辺（清水商）をバックスからFWに上げ、坂口（桐生工）をバックスにする変則布陣を試みた。（観衆約三千）

▽第6戦（9月7日、11人制）

全日本　7（3—5、4—2）7　五山高
引き分け

五山高は全韓国高校選手権チームだけあって技術、闘志ともさすがにりっぱだった。全日本は初めて苦しい試合となった。

しかも試合前から降っていた雨が途中から豪雨となり、ウォーミングアップ不足のうえパス、キャッチともミスが目立った。前半矢島、八重柏（古川工）らがノーマークとなりながらシュートをはずして得点できなかった。これが五山高にリードを与える因となった。後半、全日本は3点を返して6—7と迫ったが、エース小川が徹底的にマークされた。しかも反則気味のマークを、主審が再三見のがしていたため6人攻撃のテンポが狂った。やっとタイム・アップ寸前に、フリースローを拾い飯端がこれを決めて引き分けに持ち込んだ。（観衆四千五百）

連載第三回

ハンドボール球史

戦前の日独対抗・東西対抗

戦前の日独対抗

◇第一回

▽ヒットラー・ユーゲント（ドイツ）対全日本（昭和13年9月16日 神宮競技場）

全日本 16（8―5／8―4）9 ドイツ

◇第二回

昭和15年6月に紀元2600年奉祝東西競技大会が東京で開かれた。ハンドボールは日体チーム対在日ドイツ人チームの試合を行ない、日体が2勝した。

▽**関東大会**（6月9日、明治神宮競技場）

日体 8（4―5／4―0）5 在日ドイツ人選抜

「主審」外山（慶大OB）

	（日本）	（ドイツ）
GK	徳永 陸繁	ベートゲアン
FB	広井 喬	ショーンフェルト
FB	島田新太郎	コンシャック
HB	宮崎顕一郎	マッターン
HB	花畑 平男	ベア
HB	川村 富雄	ボーカート
FW	四宮 重信	シュミット
FW	山田 計	ションボーン
FW	高嶋 洌	ヘッセ
FW	山田 文威	ウーツェル
FW	文 顕 柱	マック
FT	9	9
GT	2	5
CT	2	1

▽**関西大会**（6月16日、橿原第二競技場）

日体 8（3―1／5―4）5 在日ドイツ人選抜

「主審」外山（慶大OB）

	（日体）	（ドイツ）
GK	宮本 廸彦	ベートゲアン
FB	広井 喬	ショーンフェルト
FB	島田新太郎	コンシャック
HB	宮崎顕一郎	オット
HB	花畑 平男	ベア
HB	川村 富雄	ボーカート
FW	四宮 重信	シュミット
FW	山田 計	ションボーン
FW	徳永 陸繁	ヘッセ
FW	山田 文威	ウーツェル
FW	高嶋 洌	マック
FT	1	1
GT	21	20
CT	1	3
13M	0	0

◇第三回

▽日本対訪日ドイツ艦隊（昭和17年11月29日、明治神宮競技場）

日本 8（3―4／5―3）7 訪日ドイツ艦隊

	（日本）		（ドイツ）
GK	島田 重春	（日体OB）	A・モザーナー
FB	川村 富雄	（〃）	ハンジェ
FB	若崎 重富	（〃）	フインク
HB	荒川 清美	（日体）	ソック
HB	北川 浩	（日体OB）	O・シュミット
HB	有元 正勝	（慶大）	マッテルン
FW	高橋 満年	（日体OB）	マルティウス
FW	島田 清	（慶大）	ヘンペル
FW	高嶋 洌	（日体OB）	ベルンシュタイン
FW	宮崎 愼六	（早大）	ワッサロース
FW	林 理一	（早大）	リュッデノイラート
FT	17		19
GT	29		26

日本はこのほか監督池上金治、選手は安田伊三治（慶大）、井上照男（慶大）、釘貫浩（早大）、宮本西嗣（日体OB）、マネージャー長岡蒸治。

◇第四回

▽枢軸国交歓大会第一戦（昭和18年12月5日、明治神宮競技場）

日本 11（8―7／3―4）11 ドイツ

	（日本）		（ドイツ）
GK	林 和	（法大OB）	A・モザーナー
FB	釘貫 浩	（早大OB）	ハンジェ
FB	横山 駿一	（早大OB）	フインク
HB	井上 照雄	（慶大OB）	ソック
HB	藤田 八郎	（日体OB）	O・シュミット
HB	酒井 録郎	（早大OB）	マッテルン
FW	池田 清	（日体OB）	ベルンスタイン
FW	林 理一	（早大OB）	ヘンペル
FW	油井孝一郎	（日体OB）	A・ベルンシュタイン
FW	高橋 満年	（日体OB）	W・シュミット
FW	島田 清	（慶大OB）	オーミイヒエン
F T	18		21
C T	5		2
PCT	3		3

（◎第二戦の記録を保存されている方がありましたらお知らせください。）

注＝本誌第2号（35年7月発行）の11ページ「国際試合の歴史」の項に戦前の日独対抗の記録が掲載してあります。

早慶連合、韓国遠征

▽第一戦（昭和15年7月18日、咸興）

慶大 8（4―2／4―5）7 早大

	（早大）	（慶大）
GK	上松	林（大）
FB	横山	須藤
FB	尹	有元
HB	蔭浜	井上（照）
HB	宮崎	大坪
HB	真島	島田
FW	井出	和田
FW	佐原	井上（淳）
FW	花水	西
FW	肥後	内藤
FW	林	林（吉）

▽第二戦（7月19日 元山）

早大 5（1―1／4―3）4 慶大

	（早大）	（慶大）
GK	上松	古田
FB	横山	須藤
FB	尹	安田
HB	蔭浜	井上
HB	宮崎	大坪
HB	真島	有元
FW	肥後	和田
FW	佐原	島田
FW	花水	内藤
FW	井出	林（大）
FW	林	林（吉）

▽第三戦（7月21日 平壌）

早大 6（2―4／4―1）5 慶大

	（早大）	（慶大）
GK	上松	古田
FB	蔭浜	有元
FB	横山	須藤
HB	渡辺	島田
HB	肥後	大坪
HB	真島	井上
FW	四宮田	和田
FW	佐原	内藤
FW	花水	西
FW	林	林（大）
FW	村井	林（吉）

▽第四戦

京城で行なわれる予定だったが、豪雨のため中止された。

東西対抗

▽**第一回**（昭和13年11月21日、南甲子園運動場）

この試合は国民精神作興体育大会第二日の競技として行なわれた。関東は明大。関西は選抜チームであったが、関東が大勝した。

関東（明大）13（6―1／7―1）2 関西選抜

(関東)		(関西)	
小野寺	GK	後　藤	(神戸)
山　口	FB	外　山	(大阪)
岡　部		佐々木	(岡山)
吉　山	HB	広　瀬	(神戸)
武　居		小笠原	(大阪)
庄　司		小　林	(岡山)
山　田	FW	藤　原	(神戸)
桜　田		足　立	(神戸)
李		塚　本	(大阪)
石　井		浜　谷	(大阪)
朴		室　井	(神戸)
24	FT	19	
13	GT	12	
1	13M	3	

▽**第二回**（昭和14年11月19日、明治神宮競技場）

関東 16（8—4、8—1）5 関西

▽監督　小野嘉一

(関西)			(関東)	
ペチェマン	(神戸)	GK	徳　永	(日体)
早　川	(京都)	FB	須　藤	(慶大)
浜　谷	(大阪)		宋	(早大)
小　野	(神戸)		川　崎	(早大)
宮　本	(神戸)		島　田	(日体)
中　川	(大阪)		広　井	(日体)
岡　本	(大阪)	HB	肥　後	(早大)
シュミット	(神戸)		飯　田	(早大)
リン	(神戸)		前　田	(日体)
シュンボーン	(神戸)		菅	(日体)
マイスター	(神戸)	FW	林	(日体)
山田(福)	(神戸)		林	(慶大)
足　立	(神戸)		角	(慶大)
本　田	(神戸)		文	(日体)
瀧　本	(神戸)		田　中	(日体)
			越　智	(日体)
			山　田(計)	(日体)
			外　山	(慶大)
			和　田	(日体)

▽監督　菅公

（評）　身長、体力からみれば、はるかに関西の方が優れていた。全関西はマイスター、シュンボーンを中心としてトライアングル戦法をとり、個人プレーの続出はいかにも練習不足の感を強くした。それに反し全関東は伸縮自在に戦法を生かし、スピードある攻法は遂に大差をもって全関西を降した（原文のまま）。

▽**第三回**（昭和16年1月19日、南甲子園運動場）

関東 13（7—0、6—0）0 関西

関西		関東
足立進	GK	島田重
熊　野	FB	島田新
兼　平		花　畑
中　島	HB	川　村
菅		広　井
川　島		宮　崎
足立友	FW	高　嶋
山　本		棉　本
斎　藤		徳　永
門　山		山　四
前　田		田　宮
17	FT	17
0	CT	0
2	PCT	3
0	13M	0

▽**第四回東西対抗**（昭和18年1月17日　明治神宮競技場）

関東 10（4—2、6—1）1 関西

〔関東〕（監督）外山淮二、（主務）浜忠夫、（主将）有元正勝、（選手）高嶋冽、島田清、宮崎慎六、林理一、小袋是郎、宮本酉嗣、北川浩、宮崎聰八、井上照男、荒川清美、若崎重富、安田伊三治、釘貫浩、八隅基夫。

〔関西〕（監督）馬場太郎、（主務）白倉仲助、（主将）和田旬功、（選戦）島田重春、佐藤真六、吉村巧一、船井、永来俊夫、藤井栄一、治田精夫、武田灘夫、今井孝男、斉藤浩棉本顕柱（本名文顕柱）、高橋満年、宮田聖四郎、門山孝。

▼**前号の訂正**　▽27頁　見出し中「昭和12年にも」とあるのは「昭和15年にも」の誤り

関東選手権

▽**第一回大会**（昭和12年10月22日、体育研究所グラウンド）

（一回戦）

日　体 16—2 慶大クラブ

文理大 9—4 青山師範クラブ

（決勝）

日　体 6（3—2、3—2）4 文理大

（評）　日体はバスケットボールの選手を中心にした。ボールになれていたことが強味で、予想どおりの結果に終わった。ハンドボールの公開試合としては最初の大会であったため、ハンドボール本来の特徴は見られなかった。この大会の審判は正副二人とし、ルールの適用に細心の注意をはらっていた。（注＝評のなかではハンドボールといわず「送球」となっていた。読みやすいようにハンドボールとしました。ご了承ください）。

▽**第二回大会**（昭和13年6月12〜13日、体育研究所グラウンド）

（一回戦）

日体A 19—5 慶　大

明　大 21—0 早大B

日体B 6—2 浦和高校

（準決勝）

日体A 10—1 早大A

明　大 7—5 日体B

ちょっと一言

芝工大の没収負けに思う

夏の全日本総合選手権で芝浦工大（東京）が準々決勝で中大に没収負けとなった。

理由は二回戦の対立大（東京）戦で大会規則に違反した選手を使ったからだ。

問題となったA選手は同門の滴水会（東京）の選手として関東予選に出場した滴水会が敗れたため推薦の芝浦工大の選手として本大会に出場したため没収された。当然のように「おかしいじゃないか」と抗議があって、大会当局もこの抗議を認めた。そして芝浦工大の出場資格を没収した。

違反選手を使われて負けた立大が勝ち進まず、次の相手の中大（東京）が不戦勝を拾う幸運に恵れたのもおかしな話。立大が、芝浦工大の出場選手に疑義を抱かず、負けた日に帰ってしまった。

四連勝をねらった芝浦工大にしてみれば泣いても泣き切れぬ。このうかつさが前回の選手権者だけに責められよう。

しかし今年は予選制を布いた最初の年。それに大会前のエントリー会議（監督主将会議）で各チームの出場選手は各チームの代表によって認定されていた。だから、準々決勝以後のA選手の出場資格を没収するのは納得できない。予選施行を決めた時日などを考えれば、今年かぎりの特例を設けてもよかったような気がする。

芝浦工大がくさらず、今後のシーズンに健闘を続けるよう期待する。大会前のエントリーの認定は慎重を期すよう関係者に望みたい。（黒尾武）

技術研究室

基礎を中心とした合宿計画（第四回）

高校用

担当　松本重雄

一言で合宿練習といっても二通りある。基礎練習を主とした合宿と試合を直前にした合宿練習とでは、それぞれ、技術的見解、効果、その進め方とは、違っている。今回は、一応基礎を中心とし、チームを編成するのに必要な、合宿計画の一案について説明したいと思う。

一、期間について

技術的効果と、体力的調整を必要とする日数については、十日間から、二週間を持つことがよいとされている。現況の学校生活中、種々の面で、さしさわりがあるため、正味一週間程度の合宿計画を基準とした。

二、準備について

A　全体的（首脳者、主務など）

a　日時の選定

前日夜集合、就床前に、細部打ち合わせ、伝達のあと、合宿生活にはいることがのぞましい。合宿の解散は、最終日の翌日、午前中がいい。

b　場　所

グラウンドが大切である。各自の学校のグラウンドは別とし、地理的、経済的条件を考え選定しなければならない。凸凹の有無、宿舎とグラウンドの往復時間、水道、日射の方向、日陰の有無、ゴールうしろの状態、宿舎の環境などを考慮することも、必要とする。

c　宿　舎

自炊をなるべく避けたい。環境、風紀、水洗場、手洗、便所、寝具、その他栄養、保健的な面も注意しなければならない。

d　費　用

交通費、宿泊費など、必要以上の費用はかけない。栄養に重点をおく、全体的費用は月割りに貯金することがいい。一度に多額の出費はよくない。

e　食事について

できれば、カロリー表（計算）を、栄養士、保健教員、家庭科教師に作成してもらうことがよい。特に栄養関係の書物を勉強し栄養補給のために、別な給与の方法。あるいはビタミン剤を一斉に与えることにも心掛けたい。

f　用具の準備

ボール、ポンプ、油、布、その他を用意すること。

g　保健的準備

駆虫剤（はえ、蚊その他）ほうたい、副木、薬品（特に腹痛、外用）手拭、ガーゼなどをじゅぶん用意すること。保険証、印かんも持参するといい。

B　諸準備完成に際し

a　幹部打ち合せ

日程表、申し合わせ事項、練習試合などの打ち合わせをじゅうぶんすること。

b　連絡（合宿先）をしっかりすること。

礼儀上、諸連絡、対人関係の記録などに不備のないように。

c　合宿通知を全員に確認し返答をとること。

d　主務は先発して、連絡先のあいさつ、宿泊、グラウンドなどの準備に念を入れること。

C　個人的準備

a　身体的調整

合宿前一週間は、走ること、柔軟体操、などにより筋肉がつるようなことのないようコンディションをととのえること。

食事の企画性と整腸、学習上の整理をしておくこと。

b　用具、持参品

練習用具、運動靴、着換え、ほうたい、ガーゼ、外用、内用薬（自分に合った薬）ビタミン剤、健康保険証など。

c　父兄に合宿先を告げておくこと。

d　地理的考察

汽車時刻、乗り換え、地方的特質、名所、史蹟、特産物、人情、言語など、予備的考察も必要なことと思う。

e　日記帳、学習書（重点的科目中心）雑記帳、筆記具を忘れないこと。

三、日課表、日程表

チーム作りを中心に別表のとおり作成してみた。OB等その場限りのコーチによってペースを乱されないよう一貫した計画で特定のコーチにつくのが望ましい。

日課表

項目	時間
起床	6,30
朝食	7,00～ 7,30
練習（午前）	9,00～11,30
昼食	12,00～12,30
休養（午睡）	12,30～14,30
練習（午後）	(14,30～17,30 / 15,00～18,00)
洗面，風呂	18,00～19,00
夕食	19,00～19,30 (18,30～19,00)
休養，身廻整頓，勉学	18,30～21,00 / 19,30～21,00
反省時間（研究）	21,00～22,00 (30分～60分)
就寝	22,00

四、基礎練習編

A　ボールを扱わない練習

○　準備体操

○　柔軟体操

○　マット運動（巧緻性を養成）

○サーキット、トレーニング（体温を早く上げるため、いろいろ速度、姿勢の違う組合せ運動）
○インターバル、ダッシュ（トラックを区分にわけて、ダッシュとジョッキングをまぜて走る）
○ジョッキング
○ダッシュ
○競走（リレーを含む）
○鬼ごっこ
○綱引き、木のぼり
○階段登降
○相撲（押し、突っ張り、運身）
○長距離を走る
○ターン（バックターン）
○サイドステップ
○整理運動（体操）

B　ボールを扱う練習

a　基礎技術

○パスとキャッチ（スタンディングランニング）
☆隊形
イ、隊列、ロ、星形、ハ、円陣、ニ、直進、ホ、クロス、ヘ、ダッシュ、ト、十本パス（強直球を10本一人でとる方法）
○チェンジパス（一列、隊列、手渡し）
○三角パス（ランニング）
○クロスパス
○ドリブル（直進、蛇行、その他）
○カット練習（各種）
○シュート練習（スタンディング、ランニング、ドリブル、ジャンプ、倒れ込み、7メートル、14メートル）
○十回パスゲーム
○フリーパス（試合前など、ランニングしながら、自由に味方方同士各種のパスをする）
○フェイント（目つき、スタイル、ピボットの重心移動のコツをみつける）

b　オフェンス・ディフェンス ｝ 一対一、二対一、二対二、三対二、三対三、四対三、四対四、五対四、五対五、六対五、六対六

○ポストプレー
○キーパー練習
○リターンパス
○ブロック技術
○フェイント技術
○シュート
○フリースロー
○ローリング（ポスト、クロス、波状攻撃の応用）
○速攻
○フォーメイションの研究

日　程　表

前日	午前	午後（集合）	打合せ注意（夜）
第一日	○準備体操(柔軟) 15分 ○ジョッキング ｝25分 ○サーキット ○パスとキャッチ 40分 ○ランニングパス 25分 ○鬼ごっこ 15分 ○整理体操 10分 （休20分）二回に分ける	○準備体操 15分 ○ジョッキング ｝30分 ○競走 ○パスとキャッチ 40分 ○チェンジパス 25分 ○カット練習(三角) 20分 ○十回パスゲーム 20分 ○整理運動 10分 （休20分）	反省事項 （合宿の心構え） 30分
第二日	○準備体操 15分 ○マット運動 20分 ○ジョッキング，ダッシュターン 20分 ○パスとキャッチ 30分 ○ランニングパス 20分 ○鬼ごっこ 15分 ○整理体操 10分 （休20分）	○準備体操 15分 ○ジョッキング，ダッシュターン ｝30分 ○競走 ○パスとキャッチ 30分 ○ランニング 20分 ○シュート 30分 ○カット練習 10分 ○十回パスゲーム 15分 ○整理運動 10分 （休20分）	反省事項 研究事項 （走法 キャッチ パス） 30分
第三日	○準備体操 ○マット運動 ○ジョッキング，ダッシュ，ターン ○パスとキャッチ ○ランニング ○シュート ○整理体操 （休20分）	○準備 ○ジョッキング ○インターバル ○パスとキャッチ ○三角パス ○シュート ○マンツーマン ○キーパー ○リターンパス ○整理体操 （休20分）	（研究） パス，キャッチ ランニング シュート 60
第四日	○準備体操 ○サーキット ○ダッシュターン ○パスとキャッチ ○ランニング ○シュート ○ディフェンス ○コンビ ○二対一 ○二対二 ○キーパー ○整理 （休20分）	○準体 ○インターバル ○パスとキャッチ ○ランニング ○シュート，ポジション ○二対一 ○二対二 ○三対二 ○十回パスゲーム ○整理 （休20分）	（研究） マンツーマン キーパー 60 オフェンス ｝原則 ディフェンス
第五日	○準体 ○ダッシュ，ターン ○パスとキャッチ ○ランニングパス ○三角パス ○シュート ○オフェンス ○ディフェンス ○三対二 ○三対三 ○四対三 ○五対五 ○六対六 ○整体 （休20分）	○準体 ○ダッシュ，ターン ○パスキャッチ ○三角パス ○シュート ○速攻 ○ローリング ○ディフェンス ○コンビネーション ○六対六 ○キーパー ○整体 （休20分）	三対二 五対五 60 六対六 （オフェンス ディフェンス）
第六日	○準体 ○ダッシュ，ターン ○パスキャッチ ○三角パス ○キーパー ○コンビネーション ○オフェンス（ポスト） ○ディフェンス ○六対六 ○紅白ゲーム ○整体 （休20分）	○準体 ○ダッシュ，ターン ○パスとキャッチ ○ランニング三角 ○キーパー ○ローリング（ポスト） ○ディフェンスコンビ ○六対六 ○紅白ゲーム ○整体 （休20分）	作戦 フォーメーション
第七日	○準体 ○ダッシュ，ターン ○パス，キャッチ ○ランニング三角 ○練習ゲーム ○弱点研究 ○整理 （休20分）	○準体 ○ダッシュ，ターン ○パス，キャッチ ○三角 ○キーパー ○練習ゲーム ○弱点研究 ○グランド整備 ○あいさつ ○整理体操	作戦 チームワーク 総合反省
後日	解　散		

○コンビネーション

C　チーム的総合練習

○ポストプレー
○クロスプレー
○リターンプレー
○速攻法
○遅攻法
○ディフェンス（カット、アタック、インターセプト）
○コンビネーション
○攻防戦
○練習試合
○作戦
○キーパーとのコンビ
○交替技術
○フリースロー
○7メートルスロー
○14メートルスロー
○十回パスゲーム
附　5人一組みを二組み作り、紅白の各チームとする。
○ディフェンス的にはマンツーマン
○コートは7人制の半分ぐらい。
○味方同士10回、3人以上がさわって早く十回パスした方を勝とする。（リターンパスはやってもよいが、回数にいれない。ドリブルもよい）
○レフェリースローから開始
○オーバーステップなどの反則、ホールディングなどの雑体反則をとる、相手のフリースローとする。
○スローインもある
○時間は3分ハーフ　1分休み（但し3分以内に勝ちを認めてよい）

体育研究室

ハンドボール選手の体力

——日本代表女子チームの体力について——

山本隆久

技術と体力の関連について

試合における勝敗を決定する要因の一つとして、体力の占める割合は相当高いものと思われる。技術の修得及びその発揮、猛練習等の基礎となるべき体力の養成を怠っては、十分な成果をのぞむことは難かしい。

技術と体力、特に筋力との関連は、今日、未だ完全に解明されていないが、非常に重要な関連性を有していると考えられ、キネシオロジー(Kineciology)の一分野として、学問的に徐々に探究されてきている。ハンドボールのみならず各種のボールゲームにおいて、そのスポーツの基本技術は選手としての練習を行ない、対外試合に出場し得る位の選手ならば、そのフォームは技術の優劣により大きな差はあるものではない。基本技術をゲームの場において、他の選手(敵、味方を含めて)との連携動作によって如何に発揮するかが表面にあらわれてくるのであって、それがチームの強弱、技術の優劣としてとりあげられる。フォームに大差がないとすれば、ゲームにあらわれる基本技術の優劣は体力、特に筋力と、その筋力を持続的に(即ち、ゲーム中、始めから終りまで)発揮し得る力によって決定される。

(注)ボールゲームにおける技術を形成する要因で、体力、特に筋力の占める割合は非常に高いが、フォームに大差がなく、体力(特に筋力)が優れていたとしても、ゲームにおいて総合された技術として発揮するためには筋力以外に多くの要因(例えば巧緻性、敏捷性、柔軟性、対人関係、作戦等)が作用することは勿論考慮されねばならない。

ソ連では早くから基礎的な体力(スポーツの種目にかかわらず、スポーツマンとして必要な体力)はもとより、その競技において必要と思われる体力の養成に力を注ぎ、今日の世界スポーツ界の各方面で活躍する礎を築いたことは周知のことである。

(注)ボールゲームにおける体力の養成特にソ連方式の考え方に対して、必ずしもそれを全面的に全ての人が肯定しているわけではないが、しかし、ソ連の活躍の陰に系統たてられたトレーニング・システムが完成され、それが大いに貢献していることには異存がない)

国内の大会では同じ様な体格の持主で以って組織されたチーム間でゲームを行なうわけであるから、体力的なハンディキャップというものはそう目立つものではなく、ゲームにあらわれてくる選手或はチームの綜合技術的な面が大きくクローズアップされることが多い。しかし、海外遠征やら、或は国内での国際ゲームでの勝利を目標とする為には、体力の増強は一日もゆるがせにできぬものがあり、ひいては技術の、或はレベルの向上につながっていくものである。チーム間の強弱の原因の一つとして体力の優劣が関係することは「ハンドボール選手の体力」—勝敗を決定する要因の一つとしての体力—(ハンドボール No. 10 p.28)に報告されている。

今夏欧州に遠征し、ルーマニアのブカレストで開かれた第二回世界女子選手権大会(七人制)に参加した日本チームの体力面からみたプロフィールを紹介し、日常のトレーニング(特に体力養成の面で)の一つの指標としたい。

△測定年月日及び場所

昭和37年6月13日　国立競技場

△被検者

全日本女子チーム15名(GK3名　FP12名)

△測定項目

1　形態面…身長、体重、上肢長、下肢長、胸囲、伸展上腕囲、屈曲上腕囲、前腕囲、下腿囲、手長、大腿囲、骨盤巾、肩巾、皮下脂肪厚、指極

2　機能面…背筋力、握力、体前屈、肺活量

3　運動能力面…垂直跳、立巾跳、サイドステップ、20mダッシュ、遠投、バーピー、ハーバーステップテスト

(右上腕屈筋力、右上腕筋持久力、全身反応時間については次回に男子とまとめて報告する)

△測定成績について

測定成績は表に示す通りである。今回は比較すべきデータがなく、十分な検討が加え得ないことは残念であるが、遂次実施して、ハンドボール選手として必要な体力の指標を見出していきたい。

全体的にいえることは

1　形態的にみて小さい

2　体力的にみて、まだまだ鍛える必要があり、又、その可能性を十分に持っている。

3　GKが全般的に比べて優れているが、しかし必ずしも満足すべきものではない。形態的面にしろ、機能的面、運動能力面で

豆ニュース

▽ドイツのハンドボール専門誌によれば、先の第二回女子七人制世界選手権の、個人得点十傑で、日本の西村八千代選手(熊本・大洋デパート)は12点をあげ、第三位にランクされた。首位はマテュ(チェコ)14点。

▽西独女子ナショナルチーム招待の話が進んでいる。条件が折り合えば38年1月から3月までの間に来日する。

GKがFPより優っている。しかし、少なくともFPがGK位の体力(全体的に)が必要であろう。又、GKにしても、スポーツ選手としては決して十分とはいえない。

形態的面で、身長が低いことに素質の影響が大きくひびくのでトレーニングの余地が少ないが、他の項目では、充分にある。

機能的面及び運動能力面では形態的面に比べて相当に鍛えられているけれども、絶体的に不十分であると思われ、体力の限界まで能力が発揮されているとは到底いい難い。しかし、又、その反面、鍛えるべき余裕が十分にあることは今後のたのしみである。

各項目の測定成績をみると、チーム内の最高と最低の差が相当大きい。特に機能面と運動能力面においてそれが大きくあらわれている事はチーム編成上や、作戦上に影響を与えているのではないだろうか。

絶対的に必要な体力増強

日本チームの遠征の成績は決して芳んばしいものではないかも知れないが、始めての海外遠征でもあり、この体力で良く戦えたと感心している。成績の如何にかかわらず、その対戦の内容から受ける示唆は極めて大きい。即ち、技術的面については他の外国チームに対して決してひけをとらない。が しかし、体力的面では世界選手権大会に参加したチーム中、最小のチームであるということである。若し、体力的に上位にあれば必ずや選手権を獲得し得るだけの技術、能力を有していたに違いないと信じている。

この様な意味からも、先に述べたレベルの向上ということからも、体力増強が必須のものであることは認めなければならない。

体力増強の方法については前述の「ハンドボール選手の体力」に概括して述べてあるので、参考にして頂きたい。トレーニングのスケジュールを決定するに際しては、ハンドボールの持つ特性を考慮し、更に選手自身の体力を加味して行なうべきである。

又、体力の増強と共にボールから全然はなれた状態がない様にも考えねばならない。綿密に立てられたスケジュールを、慎重な管理のもとに不断の努力が要求される。

選手及び監督が一体となって唯技術のみを追うことに終始せず、体力増強について一層の研讃が必要であろう。

この測定に御協力を頂いた日本チームの選手の皆さん、及び関係者並びに東京大学教育学部石井喜八氏、小山貴氏、芝浦工大、三浦睦夫氏、佐々木明男氏、吉武敬磨氏、東京大学教育学部山口晃氏及び東京教育大学、日本女子体育短期大学のハンドボール部員、御指導頂いたトレーニングドクター広田公一先生に感謝致します。

女子代表の体力測定データ

項目	測定成績	平均値 全員	平均値 GK	平均値 FP	測定値 最高	測定値 最低
形態的面	身長	157.0	161.5	155.9	166.5	147.1
	体重	55.6	57.7	55.0	62.0	49.0
	胸囲	82.8	82.9	82.8	88.4	77.0
	上肢長(右)	67.2	68.9	66.7	70.8	62.2
	(左)	66.4	68.8	66.7	70.5	62.0
	下肢長	83.7	87.6	82.7	88.6	77.4
	伸展(右)	24.6	24.0	24.8	26.8	21.5
	上腕囲(左)	23.8	23.7	23.8	26.8	21.0
	屈曲上腕囲(右)	28.3	27.7	28.4	29.8	24.5
	(左)	26.2	26.0	26.3	28.8	24.5
	前腕囲(右)	23.9	23.9	23.9	25.0	22.3
	(左)	23.3	22.7	23.5	26.0	21.2
	大腿囲(右)	54.9	55.8	54.7	58.5	51.3
	(左)	54.6	54.9	54.5	58.0	50.3
	下腿囲(右)	35.5	35.3	35.5	39.6	32.4
	(左)	35.2	35.3	35.2	39.0	32.0
	手長(右)	20.2	21.0	20.1	22.0	19.0
	(左)	20.2	20.9	20.1	21.7	18.8
	肩巾	36.3	36.5	36.3	38.2	34.0
	骨盤巾	25.1	25.1	25.1	27.8	23.0
	指極	158.5	163.4	157.3	167.0	150.7
	皮下脂肪厚	7.7	7.0	7.9	12.0	3.5
機能的面	背筋力	111.1	118.7	109.2	128.0	90.0
	握力(右)	38.1	40.0	37.7	41.0	32.0
	(左)	33.0	34.3	32.7	38.0	28.0
	体前屈	47.7	52.7	46.5	55.0	37.0
	肺活量	3150	3400	3088	3720	2440
運動能力面	立巾跳	1.82	2.01	1.88	2.04	1.71
	サイドステップ	20.7 41.1	21.3 41.3	20.5 41.0	23 44	19 39
	20m ダッシュ	3.7	3.7	3.7	3.5	3.9
	バーピー	32.2	33.3	32.0	37¼	29
	遠投	26.8	26.1	27.0	29.8	21.5
	ハーバード	105.2	102.0	106.7	118.5	88.8
	垂直跳	39.5	39.7	39.4	46.0	35.0

地方だより

清商ク、桜丘会を破る

▽**第十四回東海選手権**（9月23日名古屋松蔭高）
▽男子一回戦
清商ク（静岡） 11（8―5 3―3）8 桜丘会（愛知）
鵜の森ク（三重） 13（6―4 7―7）11 岐阜ク（岐阜）
▽三位決定戦
桜丘会 22（10―6 12―4）10 岐阜ク
▽決勝
清商ク 20（9―0 11―7）7 鵜の森ク
（清商クラブは初優勝）
▽女子一回戦
愛知紡（愛知） 27（10―0 17―1）1 大垣ク（岐阜）
田村紡（三重） 19（10―6 9―6）12 城北ク（静岡）
▽決勝
愛知紡 13（6―2 7―2）4 千田村紡
（愛知紡績は五連勝）

静岡城北高敗れる

▽**第17回国体東海予選兼東海高校総合体育大会** 女子の部は9月23日、名古屋の松蔭高で行なわれた。今夏の全国高校選手権に初優勝した静岡城北高（静岡）は、稲沢高（愛知）に前半3対1とリードしたが、後半逆転され6対5で敗れた。

氷見クラブ初優勝

▽第一回北信越地区総合選手権大会は9月9日、新潟県の柏崎市営ハンドボール場に北信越各県の代表が参加して行なわれた。男子は氷見ク（富山）、女子は富山女高OG（富山）が初優勝した。高校部門（国体予選）は、男子が北佐久農（長野）、女子は富山女高（富山）が一位となった。
▽一般男子一回戦
全長野（長野） 20―17 小松ク（石川）
氷見ク（富山） 27―8 柏崎ク（新潟）
▽決勝
氷見ク 15（7―7 8―6）13 全長野
▽一般女子決勝
富山女OG（富山） 13（8―2 5―1）3 常盤ク（新潟）

一般で岐大優勝

岐阜県総合選手権大会は十一月十一日 岐阜加納高校グランドで行はれた。
▽高校男子準決勝
加納高 13―6 岐山高
大垣農 17―7 大垣南高
▽同決勝
加納高 13（6―5 7―5）10 大垣農
▽高校女子準決勝
加納高 11―7 鶯谷高
大垣南高 18―5 岐阜北高
▽同決勝
大垣南高 10（6―3 4―4）7 加納高
▽一般男子決勝
岐阜大 19（8―2 11―3）5 常盤工業
▽一般女子決勝
大垣南 11―10 大垣ク

静岡城北好調続く

静岡県中部地区高校大会は十一月十一日、静岡農グランドで行はれ、男子は清水商、女子は今年の全日本高校優勝校、静岡城北高が強いところを見せた。
▽男子準決勝
清水商 9―5 静岡農
清水東高 14―6 静清工高
▽三位決定戦
静岡農 8―6 静清工高
▽決勝
清水商 9―8 清水東高
▽女子準決勝
静岡城北高 20―4 清水西高
清水商 19―10 清水女商
▽三位決定戦
清水女商 22―1 清水西高
▽決勝
静岡城北高 18―13 清水商

ハンドボールの詩

塚田みつ子（名古屋市）

右だ……ボールだ
左だ……目ざすは
動く動作
動く繊細な神経
走る……スピーディーに
投げる……せまい
　ゴールポストに
神経は一点に集まり
そして
そこで勝負する世界
HANDBALL
勝利の感激に泣き
敗れたくやしさに泣く
そして
健闘に拍手をし合う
この一瞬!!
スポーツマン最高の幸福の
　味いだろう
影なるスポーツに泣く
HANDBALLにも
世界の平和とともに
陽の当たる
スポーツになるだろう
そう思っている
そして
そう信じている
がんばれ!!
HANDBALLを
　志すみんなよ

田村紡、三重総合に優勝

第13回三重県総合選手権は11月18・23の両日津市と四日市市で男子十チーム、女子五チームが参加して開かれ、男子は鵜の森クラブ、女子は初出場の田村紡績が優勝した。
▽女子一回戦
津女高 15―5 四日市商
▽同準決勝
上野高 12―0 津高
田村紡 17―4 津女高
▽三位決定戦
津女高 18―0 津高
▽決勝
田村紡 18―3 上野高
▽男子準々決勝
四日市工B 13―9 半田ク
本田技研 15―10 大安ク
鵜の森ク 19―6 四商OB
四日市工A 16―9 四日市商
▽同準決勝
鵜の森ク 12―11 四日市工B
本田技研 16―14 四日市工A
▽同決勝
鵜の森ク 19―15 本田技研

桜台高敗れる

11月23日名古屋で行われた愛知県高校新人大会の準々決勝で、夏の優勝校桜台高は、中京商に11－7で敗れた。

▽**第17回岡山県選手権大会**（11月10日、11日、倉敷市青陵高ほか）

▽高校男子準決勝

天城 16（8－3、8－1）4 津山工

矢掛 10（5－5、5－4）9 操山

▽決勝

天城 17（8－3、9－3）6 矢掛

▽高校女子準決勝

青陵 18（8－1、10－1）2 津山商

井原 21（15－0、6－3）3 津山

▽決勝

井原 17（12－0、5－1）1 青陵

▽一般男子決勝リーグ

倉敷ク 24（11－7、13－8）15 岡山大

倉敷ク 24（8－6、7－9、5－4、4－2）21 岡球ク

話題のチーム⑬ 菊地農蚕の巻

国体で優勝した直後、荒木監督は「インターハイで2位になって残念だったが、国体では絶体優勝してみせると自信を持っていた。ここまでくるには選手もずいぶん苦労しました。これで選手たちの苦労は報いられました」と語っていた。

33年度にハンドボール部が創立し、35年の新入生に〃三年計画〃をたたき込んだ。国体出場の山口、高山八並、中村(千)、中尾、中村美、西口、田代の8人が、三年間荒木監督に鍛えられたわけだ。合宿に明け、合宿に暮れた。すっかり合宿になれたか、ひとりも落伍者がなかった。〃打倒熊本市立高〃を旗じるしに合宿が続いた。昨年の国体予選で熊本市立高を破って秋田国体に出場したとき「目標より一年早かった。」とうれしい悲鳴をあげたくらい。「三年計画の三年目には、インターハイか国体のどちらかをいただく」――この念願がピッタリと三年目に実現した。「この8人がごっそり卒業してしまうので、来年(38年)からまた出直す。38年は棒に振り、39年のインターハイ、国体をねらう」と荒木監督は早くも闘志をもやしている。来年の新チームは、からだが小さいのでことしのチームとは性格の違ったチームをつくるとか。国体優勝をおみやげに8人の女傑は卒業して行く。進学するもの、結婚するもの、実業団チームに行くもの……。とにかく大洋デパート（国体優勝）とともに女子王国を築いたチームである。女子実業団チームからみれば〃のどから手が出るほど〃のほしい選手がいる。どこへ行くかはお楽しみ。

アウトドア・シーズン回顧……黒尾 武

今年一年をふり返って、と云うよりアウト・ドア(十一人制)シーズンを顧りみてと云った方が最近の斯界はぴったりの様である。

その中でやはり話題は、女子の世界選手権参加（六月）であろう。

初遠征、しかも初の国際試合と云う経験の不足は、多くを望む方が無理。

世界選手権の四敗はとも角、国際試合の七勝四敗一分はむしろ上出来である。

その上昨年の男子の渡欧後の成果、影響よりも、今年の女子の方が帰国後国内に多くの示唆を与えている様で、国体(十月)一般で大洋デパート（熊本）が優勝したのも、西村選手の渡欧経験がチーム全般に活かされたのが大きいと云われるほどの成果を生んだ。

女子の試合の攻撃範囲（流行語で云えば攻撃面積）が広がりつつあるのも、欧州球界の傾向を如実に表わしているもので好ましいことだ。

夏（八月）の全日本総合も話題が多かった。初の予選制採用、男女とも実業団チームの優勝、芝浦工大（東京）の失格などがそれだ。予選制については細部には本誌前号にも指摘されている通り若干改良の余地もありそうだが、その本旨は大会の権威を一歩前進させたものとして歓迎される。

男子が大崎電気(東京)、女子が愛知紡績（愛知）と両部門とも実業団チームが覇者となったことも画期的なことである。

昨冬の全日本総合室内で両者がタイトルを獲得し、斯界の新しい勢力として実業団球界が大きく前面に乗り出し、今夏また、総合選手権をも制するところとなって、学生、クラブチームの掌中から、完全に覇権は実業団に移った感じである。

学生、クラブ界、特に学生界の覇権奪回を目指しての奮起を大いに期待したい。

全日本に昭和三十二年以来六年連続優勝した女子の愛知紡績(愛知)の偉業も特筆されよう。一口に六年とは云うものの、この間のチームの精進、会社側の理解はなみたいていのものではなかろう。

この愛知紡績を国体で大洋デパートが破ったのはトピックであり、全日本総合に初出場ししかも三位となった平均年令15才と云う田村紡績（三重）の出現も、話題として欠かせない。

愛知紡績の七連覇、八連覇を期待すると共にこれら女子強豪の激しい角逐を来シーズンはさらに興味を持ってみまもりたい。

投書欄

組織委の弱体に思う

オリンピック東京大会まであと二年。日本の組織委員会やJOCのしていることは、どうも世間の不信を買うことばかりのようである。

私どもは、新聞などで報じられることから、判断するのでくわしく深いことはわからない。やはり正論というものが、なかなか通じない組織になっているような気がする。そうなると、先般日本ハンドボール協会が組織委員会に突きつけた公開質問状などは、小気味のよい一撃だったといえる。オリンピック東京大会でハンドボールが採用されるとか、復活するとかいうことではなく、日本のスポーツ界の中で堂々と組織委員会に対して、言うべきことを言った態度は実に偉かったと思う。

悲運に泣いたハンドボール界が、オリンピック東京大会の成功を願えば願うほど組織委員会の弱体が心細い。そしてあのときの公開質問状などの一件が思い出される。

（大阪・心寄世男）

シーズン制の確立望む

来年の国体から男子も7人制になったそうだ。

その〝是非〟はとにかく、協会に考えてほしいのは、このさい7人制と、11人制のシーズンをはっきりさせてもらいたい。

国体は原則として十月中、下旬である。これまでの慣習からいけば、当然11人制シーズンの最中である。ましてや国体は予選代表による大会であるから地区予選は九月から行なわねばならない。八月に各種の11人制の全日本選手権が行なわれる現状では、この切り替えは非常に短時日にやらなくてはならない。国体7人制というそのことだけを考えずそこから派生する問題について協会はどのような考えを持っているのだろうか。特にシーズン制の確立は急務であろう。（静岡、倉田生）

7人制チーム招待を

国体が7人制となり、11人制の全国大会は学生、高校、全日本総合となってしまいました。

これはいかに7人制に対するバリューが大きいかを示すものだと思います。そこで、これからの日本の7人制の発展、さらに、普及のために、ぜひ外国から7人制のチームを招いてください。欧州遠征は二度とも7人制でした。それなりの技術を習得したのでしょうが、それは遠征した選手団だけです。来年は外国の7人制チームを招待するよう関係者の努力を期待します。

（愛知、一教員）

質問欄

問 連勝中の愛知紡績が、その間に獲った主なタイトル名をお知らせください。また、大洋デパートに負けたのは初めてですか。

（東京・J生）

答 第13回全日本総合(昭36)、第14回全日本総合(昭37)、第16回国体(昭36)、第8回全日本総合室内(昭36)、第2回全日本実業団(昭37)。このほか東海地区の選手権を全部獲得しています。

大洋デパートには初めての敗戦です。大洋デパートとの公式戦での対戦成績は、これで4戦3勝1敗。

問 全日本総合で芝浦工大に規則違反選手が出て、没収負けという処置でした。問題の選手の出た試合（立大戦）はどう処置されますか。

（大阪・GG生）

答 協会は問題の起きた立大戦の試合を没収せず、次の中大戦を没収する方法をとったようです。これは済んだことをさかのぼると、大会運営に支障をきたすと云うのが理由です。立大対芝浦工大を芝浦工大の没収負け。そして中大対立大のカードは存在しなかったことにして、中大は準々決勝を無対戦による不戦勝とする方法が適当ではなかったかと思われます。

いずれにせよ芝浦工大22—13立大のスコアは抹消されます。

問 第一回国民体育大会の各決勝記録をお知らせください。（兵庫・木村文彦）

答 第一回の国体は昭和21年11月1日から3日間西宮で行なわれました。部門は現在（一般男女、高校男女）とは若干違っていました。

▽男子中等
豊中中（近畿） 11—0 倉敷工（中四国）

▽一般女子
豊中ク（近畿） 3—1 日体（東京）

▽学生東西対抗
大阪歯専（西） 5（4—1、1—0）1 早大（東）

▽一般東西対抗
全関西 10（6—3、4—0）3 全関東

編集後記

▽…本誌も本号で12号になりました。一年四回の発行（季刊）ですから、つまり誕生してからちょうど満三年です。いまになって考えると、第1号を出したとき、一本立ちできるかどうか怪しいものでした。毎号、毎号シリを引っぱたかれながら編集し、やっとここまでやってきました。これもみんなハンドボールファンの方の応援のお蔭です。ご期待に沿えるよう、こんごも大いにベストを尽します。よろしくご指導ください。

▽…第9号で「11人制か、7人制か」のアンケートを試み、そのときは7人制支持が多かったのです。国体のときに開かれた評議委員会で「山口国体から全種目7人制実施」の決定が出されました。7人制でなければ、ハンドボール人口の底辺を広げることはできないというのが一つのねらいでもあるようでした。聞くところによると欧州は7人制がさかんとか。日本もここ一、二年の間には11人制が姿を消すのではないだろうか。そのかわりに国体の出場チームは増えて、ハンドボール普及にはプラスになるでしょう。

▽…第一回ユニバシアードに参加することになり、本誌が出るころには日本チームは出発していることでしょう。参加選手を見ると全国からのピックアップチーム。ちょっと総花的な感じがしないでもない。名監督のことだから、りっぱな成績をあげてくることでしょう。

▽…10大ニュースについて、感じたことがありましたら本誌編集部まで。（ふぐ）

RENOWN
レナウン
レナウン
スポーツ
・セーター
・シャツ
・くつ下

日本ハンドボール協会編
ハンドボール　第十二号
昭和三十七年十二月二十五日印刷　発行所
昭和三十七年十二月三十一日発行　日本ハンドボール協会
東京都千代田区神田駿河台四ノ六
電話(251)九五一一〜五　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　高嶋冽
定価五十五円
(〒)二十円